

每全曜日發兌

理財科講義

專修學校

第八十六

明

二十六年三月二十四日

經濟汎論(原論ノ部) 文學士 中隈 敬 藏

經濟考徴 法學士 井 辰 九 郎

社會問題 法學博士 金 井 延

民法財産編第一(物權) 法學士 兩 角 彦 六

法 例 法學士 兩 角 彦 六

商 法(第一編第二) 法學士 鈴 木 宗 言

二十年來經濟世界之景況 法學博士 田 尻 稻 次 郎

目 録

目ノ問題ナリト明言セリ後レ言フテ曰ク勞力者ノ幸福ヲ求ムルノ道ハ只其
人口ヲ制スルノ一法アルニ(中略)五十年ノ長キ歲月ノ間英國ノ經濟學者
勞力社會ニ向ヒテ希望セザルハ只此一法アリシノミ而シテ勞力社會ノ幸福ヲ
進メント欲スル總テノ考案ハ此原則ヲ以テ一擊ノ下ニ打破セラレタリ故ニ
力者ハ遂ニ次ノ一言ヲ發スルニ至レリ曰ク若シ經濟學ニシテ勞力者ニ反對
スルナラハ勞力ハ經濟學ニ向ヒテ反對セサルヲ得ス

今其是非曲直孰レニ在リヤト問ハ、是ハ勞力者ノ方ニアリ非ハ經濟學ノ方
ニ在リト云ハサルヲ得ス實ニ經濟學者ハ一時惑ハシキ現象ニ迷ハサレ大ナ
ル誤謬ニ陥リタリ然リト雖モ此誤謬ニ陥リタレハトテ當時ノ經濟學者(マル
サスリカルドーミルノ如キ連中ヲ指スノ意ナラン)ハ全ク不能力若クハ偏見
極マレリ杯ト想像スル者アラハ是レ亦大ナル誤謬ナリト云ハサルヲ得ス彼
等ハ其之ヲ明解スルニ頗ル困難ナル事實ニ欺カレタリ事實トハ何ソヤ
第一勞銀ハ資本ヨリ實際支拂ハル、ニアラスト雖モ資本ヨリ繰替支出セラ
ル、コト是ナリ

第二勞銀ノ歩合ハ其時人口ノ數ト食物ノ在(高)食物資本トノ比例ニ依リテ定マルニアラスト雖モ該食物資本ノ存在ハ勞力者ヲ使役スルニ缺クヘカラサルノ條件ナルコト是ナリ(中略)

獨米英ノ三箇國ニ於テ諸經濟學者カ舊經濟學派ノ誤謬ヲ研究スルニ汲々タルハ既ニ數十年ノ久シキヲ經タリ然リト雖モ未タ一人ノ能ク其誤謬ヲ摘發スルト共ニ完全ナル原理ヲ提出シタル者アルヲ知ラス(中略)
余ハ第一ニ左ノ質疑ヲ呈出スヘシ

勞銀ハ何故ニ拂ハル、カ

第二ニ左ノ質疑ヲ呈出スヘシ

正味ノ勞銀ヲ定ムルモノハ何シヤ

正味ノ勞銀トハアダム、スミス氏ノ所謂勞力者カ受タル所ノ必要物適意物及ヒ奢侈物ノ分量ヲ意味ス

第一ノ質疑ニ答フルニ當リテハ勞力者ヲ使役スルニ就キテ左ノ三條件ノ缺クヘカラサルコトヲ知ラキルヘカラス

- 第一項 勞力者ノ生産スル貨物ハ世ニ需要アル貨物ナラサルヘカラス
- 第二項 食物資本ナカルヘカラス即チ其何人タルヲ問ハス勞力者ノ生産ノ成就スル間勞力者ニ必要缺クヘカラサル衣食ヲ貯蓄セシ者ナカルヘカラス
- 第三項 勞力者ハ資本ヲ備ヘ生産ノ事業ヲ支配シ貨物消費者ノ需要ニ供スル事業ヲ經營スル者即チ傭主ヲ見出サ、ルヘカラス傭主ノ當世生産事業ニ於ケル作用ヲ能ク解スル者少シ此作用ハ實ニ重大ナルモノナリ傭主ハ國ノ財源ヲ穿鑿シ遺利ヲ發見スヘシ彼ハ老衰セル事業ヲ利用シテ新事業ヲ起スヘシ彼ハ勞力者ヲ工場ニ招集スヘシ彼ハ事業ノ損失ヲ負擔スヘシ彼ハ勞力者ノ勞銀ヲ保證シ消費者ノ需要ニ注意スヘシ彼ハ何レノ處ニ最モ廉ニ粗品ヲ買ヒ得ルヤ彼レノ貨物ハ何時ニ賣出スヘキヤ何時ニハ賣出スヘカラサルヤヲ知ラサルヘカラス彼ハ内外國ノ種々ナル人民ト取引ヲ爲サ、ルヘカラス彼ナクハ(現行生産上ノ仕組アラン限リハ)勞力者ノ生計ハ成立タサルヘシ之ヲ要スルニ第一貨物ノ需要、第二資本、第三債主、事業經營主ノ意ナラン)ハ勞力者ノ使役上缺クヘカラサルナリ(中略)資本勞力及ヒ事業經營ノ事同一ノ人

ニ屬スルナラハ生産ヲ分配スルノ必要ナシ然リト雖モ右三者ハ各其屬スル人ヲ異ニスル場合多シトス故ニ分配ノ問題起ラサルヲ得ス是ニ於テカ第二ノ質疑ニ答ヘサルヘカラス

勞力者カ使役セラルトキハ其勞銀ノ多少ハ何ニ依リテ定マルヤ(即チ第二ノ質疑)勞銀ノ多少ニ就キテ先ツ第一ニ關係ヲ有スルモノハ生産額ノ多少是ナリ生産額ノ多少ハ主トシテ勞力者ノ成效力(多クハ勞力ノ效驗ト云フ語ヲ用フレトモ今改メテ斯克譯語ヲ定メタリ)ニ關係ス今試ニ米、佛、獨、露、英等ノ諸國ニ就キテ之ヲ見ルニ各勞銀ノ歩合チ異ニス其重ナル原因チ尋ズルニ勞力ノ成效力及ヒ各國天然ノ資本ニ差異アルヲ以テナリ勞銀ノ多少ハ生産額ノ多少ニ關係ストノ一條ハ勞力者ニ向ヒテ一ノ新ナル希望ヲ開キタリ勞力者ノ勞銀チ増加スルカ爲メニ其人口ヲ制限スルノ外尙ホ一ノ方法アルヲ知ルヘシ

勞力ノ成效力ノ大小ハ何ニ關係スルヤチ確キテ一言セント欲ス第一勞力者ノ腕力及ヒ技術第二器具器械ノ良否第三氣候(氣候)ノ如何ニ依リテハ英國ノ

如ク勞力ヲ續ケルコトノ出來ルアリ又出來サル國アリ(第四勞力ノ分配及ヒ工場ノ經理上債主即チ事業經營者)ノ巧拙如何是等ノ事項ハ總チ生産額ニ多少ノ影響チ及スモノナリ

今前段ノ事項チ證明スルカ爲メニ二三ノ例チ擧ゲンニ英國ノ勞銀ハ歐洲大陸ノ勞銀ニ比シ割合ニ多キ所以ハ英國ニ於テ使用セラル、器具器械ハ大陸ニ比シテ其效驗ノ優ルコト及ヒ勞力者ノ腕力及ヒ技能ハ大陸ノ勞力者ヨリモ多クノ器械チ掌理シ得ルコト是レナリ(中略)米國ノ製造家チ勞銀ノ高キチ訴ヘテ止マス歐洲ノ廉價ナル勞力ト競争スルハ甚タ困難ナリト云フハ諸君ノ知ル所ナリ米國ノ勞力者ハ何故ニ高キ勞銀チ受クルカ其原因ノ一部分ハ今論シツ、アル器械ノ一點ナリ如何トナレハ米國ニ在リテ便利ナル器械ノ發明ノ迅速ナルハ他國ノ及フ所ニアラス隨ヒテ勞力者ハ割合ニ多クノ生産チ擧クレハナリ恰モ米國ノ製造家ハ歐洲ニ於ケル廉價ナル勞銀ノ競争(廉價ナル勞銀ヲ以テ製造シタル貨物ノ競争ニ接ストノ意ナラン)チ愁訴シツ、アリシ時ニ米國産ノ鐵物類ハ英國ニ比シ一倍多クノ勞銀ヲ拂ヒ居タルニモ拘

ハラス諸外國ノ市場ニ於テ他ヲ壓倒シツ、アルコトヲ發覺セリ(中略)サー、ト
イマス、フラツセー氏ノ説ニ據レハ佛國ノ勞銀ハ英國ヨリモ二割程廉價ナル
モ製鐵ノ費用ハ却テ大ナリ是レ他ナシ勞力ヲ節スルノ方法備ハラサルカ故
ナリト云フ

勞力者カ其勞力ノ生産額ノ多少ニ隨ヒテ勞銀ノ多少ヲ受クルコトハ前既ニ
陳スルカ如シ是レヨリハ右生産額ノ價ニ就キテ一言セサルヲ得ス如何トナ
レハ第二ニハ勞銀ハ生産ノ價格ニ關係スレハナリ製造品ノ價格ヲ定ムルモ
ノニ何ツヤト云フ問題ハ頗ル困難ナル問題ナリ余ハ今貨物ヲ大別シテ二種
トス一ハ自由競争ノ下ニ生産セララル、モノニハ專有權ノ下ニ生産セララル、
モノ(中略)自由競争ノ下ニ生産セララルタル貨物ノ價格ハ生産入費ニ依リテ定
マルヘシ(中略)競争ノ廣ク行ハレ又強ク行ハル、ニ從ヒテ生産ノ價格ハ愈々最
下限ニ近寄ルヘシ此場合ニ於テハ製造家ハ生産ノ價格ヲ動カスコト殆ト爲
シ能ハサルナリ勞力者モ亦然リ專有權ノ下ニ生産セララルタル貨物ノ價格ヲ
定ムルモノハ生産入費ニアラスシテ消費者ノ需要ナリ消費者ハ生産入費ヨ

リモ數倍ノ價ヲ拂フコトモアルヘシ最少入費ヲ以テ總テノ入用ヲ満足スル
ノ目的ハ成立セス本問題ニ就キテハ充分ノ研究ヲ爲スノ必要アリ如何トナ
レハ生産額ヲ制限シテ價格ヲ騰貴セシメ勞銀ト利益トヲ増加スヘシトハ近
頃米國ノ製造家及ヒ英國ノ勞力者カ最モ望ム所ノ發議ニシテ其實專賣價格
ヲ作出セントスルニ外ナラス此處ニ於テ吾人ノ心ニ忘ルヘカラサルハ勞費
ノ最少額及ヒ利害ノ最少反對ヲ以テ生活ノ入用ヲ満足セサルヘカラスト云
ク大目的是ナリ

勞力者ハ其勞ノ成效力ヲ増加シ即チ其勞力ノ生産額ヲ増加スルノ外尙ホ其
生産ノ價格ヲ騰貴セシムルノ方法ヲ以テ其勞銀ヲ増加シ得ルノ程度ハ如何
此問題ヲ解決クニ就キテハ先ツ第一ニ此事ハ果シテ爲シ得ヘキ事柄ナルヤ否
ヤヲ研究セサルヘカラス而シテ爲シ得ヘキ事柄ナリト定マリタル上ハ第二
ニハ其事ハ經濟學者カ人ノ行爲ノ標準ト爲スヘキ教訓ヲ與ヘルノ教師タル
ヘキ資格ヲ以テ(單ニ事物ノ原因結果ヲ講究スルニ止マリ是非ヲ云ハサル純
正ノ學者タル資格ニ對シテ云フ)果シテ世ニ勸告スルコトヲ得ヘキ方策ナル

ヤ否ヤヲ研究セサルヘカラス成程此事ハ或ル場合ニ於テハ爲シ得ヘキ事柄ナルニハ相違ナシ即チ生産高ヲ制限シ又ハ同盟ヲ以テ勞銀ヲ増加スルモトニ依リテ生産ノ價格ヲ騰貴セシムヘシ今一二ノ事業ニ就キテ之ヲ論ゼンニ若シ坑夫等又ハランカヤイヤ織工及ヒ紡績夫等カ彼等ノ勞銀ヲ増加スルカ爲メニ生産額ヲ制限スヘシト決心セハ石炭ノ産出高若クハ綿布ノ産出高ヲ制限スルコトヲ主唱スレテ之ヲ實行スルハ難事ニアラサルヘシ然リト雖モ其同盟ニシテ一小部分ニ止マリ普及セサルトキハ到底目的ヲ達スルコト能ハサルハ論ヲ竣タス獨リ一地方ノ礦主若クハ一地方ノ紡績家ノミ此事ヲ承諾スルモ全國各地方ノ同意ニ依ラサレハ不可ナリ例ヘハランカヤイヤノ製造家ノミ其生産額ヲ制限スルモ他ノ製造家ニシテ不同意ナルトキハ彼等ハ其機ニ乘リテ益其生産額ヲ増加シテ市場ノ不足ニ供フヘシ果シテ然ラバ生産高ヲ制限シテ生産ノ價格ヲ増加スルハ決シテ容易ノ事ニアラサルヲ知ルヘシ(中略)

資本家カ相協同シテ生産額ヲ制限シ專賣價格ヲ專有セントスル企圖アリ此

アルヘキ一ノ非難ニ付キ少シク考察セサル可カラサルモノアリ而シテ其非難トハ他ナシ此經濟學ハ教ユルヲ得ヘキモ實用ノ學問タルヲ得スト云フコト是ナリ若シ經濟學ヲ學ブモノニシテ直ニ實地ニ應用シ得ヘキ原則ノミヲ稱シテ實用的ノモノト云ハ、予輩復タ何チカ言ハン然レトモ予輩ノ是ヨリ當サニ努ムヘキ所ハ唯、讀者チシテ能ク之ヲ實用スルニ熟練セシメント欲スルニ在テ決シテ實際的ノ書籍ヲ著述セントスルニ非サルナリ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メニ予輩ハ天然ノ法則チ記述スルヲ試ムヘシト雖モ素ト此天然ノ法則タル吾人々類ノ得テ左右シ得ヘキモノニ非サル以テ此者タル唯、之チ有用のニ使用シ得ヘキモノタルヲ知ラシメハ則チ足レリ然リ而シテ實際ニ臨ミ正當ノ見解ヲ下サント欲セハ須ラク種々ノ觀點ヨリシテ能ク經濟上各般ノ事實チ考察シ更ニ其政治經濟上一切ノ事實チ查覈スルニ當テハ能ク其眼光チ社會ノ全局ニ放チ僅ニ經濟ノ一方ヨリセシメテ汎ク國民生活ノ點ヨリ攻究セサル可カラサルナリ予輩ハ確信ス若シ或種ノ負擔、獨占權、特權、賦役等カ如何ナル所ニ於テ又如何ニシテ且如何ナル時ニ於テ廢止セラルヘキモノナルヤノ問題ニ關シテ正當

ナル判斷ヲ下タシ且一切ノ職權ヲ防止スルヲ得ルモノハ唯其何故ニ一旦賦課セラレ若クハ施行セラレシヤノ所以ヲ了解セルモノ而已ナルヘシト予輩ハ決シテ一定ノ規則ヲ定メ以テ學者ノ行爲ヲ指導スルコトヲ欲スルモノニ非ス唯予輩ノ切ニ希望スル所ハ讀者ヲシテ能ク努メテ一切ノ事實ヲ比較考察セタル後各自ノ行爲ヲ指導スルニ足ル所ノ一定不變ノ規則ヲ發見スル地位ニ立ツニ至ラシメント欲スルニ在リトス

第一編 貨物ノ生産

第一章 生産ノ要素

第一節 生産ノ意義

凡ソ新ナル物ヲ創造スルコトハ人力ノ得テ能クスヘキ所ニ非ス故ニ生産ナル語ハ廣キ意義ヲ以テセハ唯新ナル貨物ヲ前面ニ呈露スト云フニ過キスシテ即チ新ニ有用物ヲ發見シ又ハ既ニ世ニ存在セルモノヲ變形シテ新ニ有用物トナシ若クハ從來此世界ニ存在セル物件ノ全體中ヨリ更ニ人類ノ欲望ヲ充實スル道ヲ造リ出タスニ在リ然レトモ予輩ハ今此ニ萬般ノ貨物ノ生産ヲ論スルニ非スシテ唯前述シタル所ノ經濟的貨物ニ限ルモノトス又此生産ナル語ハ狹義ヲ以テセハ資産ノ増加ト云フニ過キスシテ生産ノ爲メニ増加シタル貨物ニ比シテ其貨物カ一層大ニ人類ノ欲望ヲ充タスコトヲ意義シタルモノナリ
生産者自身若クハ他ノ人々ノ爲メニ有用物ヲ創造スルコトハ經濟上生産ノ唯

一ノ目的ナリト速断スルハ大ナル誤認ナリ元來經濟上ノ生産ニシテ一層充分ニ行ハル、ニ至ルトキハ從テ生産者ハ其生産物ニ付キ一層ノ愉快ヲ感スヘク其愉快ハ則チ成效ノ結果トナリ且原因トナルモノナリ故ニ生産ハ單ニ有用物ヲ造リ出タスノミナラス兼テ生産者チ喜ンテ業ヲ務メシムル所ノ目的ヲ有スルモノナリ是ヲ以テ實際敏捷ナル勢力者ニシテ其生産ノ方法ニ付多少精巧ナル長所ヲ有セサルモノトク又最モ卑賤ナル生産ノ能力ニテ其誤用甚クカラサルニ於テハ生産者ノ身體上及德義上ノ發達ニ向テ善良ナル影響及ホスモノナリ世ノ生産者タルモノ致々拮据其業ニ勤メ以テ夫ノ懶惰ナル腦髓ハ惡魔ノ工場ナリトノ諺ヲシテ空シカラシムルコトヲ力メサレハカヲ少ナシ

第二節 生産ノ要素—天然物

天然力ヲ分テ有機的化學的及機械的トナスコトハ經濟學上肝要ナルコトニ非ス今予輩ニ向テ一層肝要ナルモノハ造化ノ賜物(物)力及關係ヲ分テ交換價格ヲ有シ得ヘキモノト之ヲ有シ得ヘカラサルモノトナスニ在リ即チ

甲、天然ノ賜ニシテ何人モ之ヲ占有シ得サルカ爲メ若クハ人類ノ欲望ニ對シテ供給無盡藏ナルカ爲メ決シテ直接ノ交換價格ヲ有セサルモノ、中モハ所謂自由貨物英語 (Free Goods) 獨語 (Freien Güter) ノ部類ニ屬スルモノアリ例ヘハ日光及ヒ空氣ノ如キ是ナリ又其國土ニ對シ特別ナル關係ヲ有スルカ爲メ國家資源ノ緊要ナル元素ヲ形成スルモノアリ例ヘハ海及ヒ氣候ノ如キ是ナリ

第三節 天然物—海—氣候

海ハ一國ノ天然ノ境界ヲ形成スルモノニシテ軍事上其國ニ取テ防禦ノ要具トナルモノナリ而シテ海ハ斯ノ如ク軍事ノ用ヲ充タスモノナレトモ亦敢テ平和ナル通商貿易ヲ妨害スルモノニ非ス又洋海ノ潮流アリテ殊ニ順風ノ助ケアルトキハ海上運輸ノ爲メ大ニ便利ヲ與フルノ效能アリ又海潮ノ干満ハ最モ緊要ナル商業上ノ機械ノ一部ヲ形成スルモノニシテ殊ニ其ノ河川ノ水流ヲ著シク左右スル場合ニ於テハ航通上便利ヲ與フルコト頗ル大ナルモノナリトス又今日ノ如ク旅行漫遊ノ風漸ク盛ンニ諸國一線ニ行ハル、ニ際シテハ景色ノ絶佳

ナル土地ヲ有スルモノハ外人チシテ其景色ニ對シ非常ノ高價ヲ支拂ハシムル
コト少ナカラサルナリ

次ニ氣候及其寒暖乾濕ニ就キ特ニ陳述セサル可カラス凡ソ温度ノ高低ハ大ニ
生産ニ關係スルモノナルヲ以テ一國ノ生産如何ヲ知ラント欲セハ須ラク其緯
度線ニ注意セサル可カラズ蓋シ生産ハ主トシテ其緯度ノ如何ニ因ルモノニシ
テ今其適例ヲ舉クレハ歐羅巴ニ於テ北緯六十度ヲ超ユレハ幾ント小麥ヲ耕作
スルコト能ハス又裸麥ハ六十六七度マテヲ極トシ大麥ハ時トシテ七十度マテ
ノ所ニ産スルコトアリ然レトモ是ヨリ以北ニ至テハ絶テ農耕ヲ營ムコト能ハ
スシテ其住民ハ皆食料ヲ肉類ニ資セサルヲ得サルカ如キ以テ緯度ノ生産ニ大
關係アルヲ知ルヘシ然レトモ温度ノ生産ニ及ホス作用ニ付キ吾人ノ考察スヘ
キモノハ獨リ一年間ノ平均温度ノミニ非スシテ尙日夜朝夕ニ於ケル温度ノ分
配及四季ニ於ケル温度ノ高低夏季ニ於ケル最高ノ温度並ニ冬季ニ於ケル最低
ノ冷氣等モ亦大ニ之ニ關係アルモノナリトス而シテ又沿岸ノ地ハ同一ノ平均
温度ヲ有スル内地ニ比スレハ冬季ハ稍温暖ニシテ夏季ハ稍冷涼ナルヲ以テ平

十四

十五

均温度ハ相等シキモ海岸ト内地トノ植物ニ差異ヲ生スルモノナリ又植物ハ其
種類ニ由リ頗ル能ク冬季ノ嚴寒ニ堪ユルモ猶盛夏ノ炎熱ヲ要スルモノアリ或
ハ盛夏ノ炎熱ニ堪ユルモノニシテ却テ冬季ノ寒氣ヲ要スルモノアリ即チ暖國
ニ生シ炎熱ニ堪ユル所ノ植物ニシテ而モ寒地ニ生シ又嚴寒ヲ凌グ植物ノ暖地
ニ成長スルコトアルカ如シ例之ハ英國ニ於テハ月桂樹「マートル」カメリア等ノ
如キ嚴寒ニ堪エサル植物ノ生育スルニモ拘ハラズ葡萄ノ成長セサルカ如キ之
ニ反シテ匈牙利ノ寒氣ハ「フアロー」群嶋ニ於ケルヨリモ嚴シク而シテ「フアロー」
群嶋ハ檉樺ノ如キモ能ク成長セサル程ノ寒地ナルニ匈牙利ハ猶ホ盛ニ葡萄ヲ
産シ又威諸國ノ内地ハ其海岸地方ヨリモ温度高キニ拘ハラズ却テ内地ニ葡萄
ヲ生スルモ海岸地ニ成熟セスト云フ此ノ如ク植物ノ生育ハ必スシモ温暖ノ地
ニノミ限ルニ非スシテ却テ寒地ヲ宜シトスルノ事實アルヲ以テ極北ノ地方ト
雖モ亦必スシモ人類住居スル能ハサルニ非サルナリ又一ノ場所ノ温度ハ獨リ
其緯度若クハ其地ノ高低ニノミ因ルニ非ス又季候ノ濕氣アルコトハ其地方ノ
近傍ニ於ケル水ノ多少ト其温度ノ高低トニ因リテ異ナルヲ通例トス尤モ歐洲

ノ如キニ於テハ北方ニ進ムニ從ヒ雨天ノ日數増加スルヲ見ルヘシ又赤道ヲ遠サカリ若クハ海面ヲ抜クコト大ナル地方ハ常ニ濕氣アリト雖モ特ニ山岳多キ地方ハ概シテ濕氣非常ニ多クシテ牧畜及ヒ森林ノ培養ニ適スルモノトス夫レ此ノ如ノ氣候ト生産トノ關係種々ニシテ其軌ヲ同フセスト雖モ凡ソ土地ノ生産力ハ故サラニ之ヲ妨碍スルモノナクシテハ氣候ノ温暖ナル所ニ於テ最大ノ元氣ヲ以テ働クモノナルコトハ一點ノ疑ナキ事實ナリ更ニ之ヲ詳言スレハ温熱大ナルニ於テハ概シテ同一ノ生産物ヲ速ニ豊熟セシメ從テ一年間數回土地ヲ使用セシムルモノナリ又各種ノ收穫ヲシテ豊饒ナラシメ而モ其生産物ヲシテ良質ナラシムルモノナリ例ヘハ果物ノ如キハ糖分多ク又脂肪質ノ植物ハ脂肪ヲ含ムコト多キカ如シ又暖地ニ在テハ自然ノ生産物頗ル富裕ナルヲ以テ人民ハ其生産ノ結果如何ニ意ヲ用ユルコト尠クシテ隨意ニ之ヲ利用スルヲ得ヘシ而シテ斯ル地方ニ於テハ多ク森林ヲ有スルノ必要ナク又冬季需要ノ準備ヲナスニ及ハス其家屋ノ如キモ少ナクシテ事足り又耕耘播種等ノ仕事ハ一年間ノ大部分之ヲナスヲ得ルカ故ニ人類及獸畜ノ勞働ヲ一時ニ且多量ニ要スルナリ

ルコト少ナク從テ此等勞働ノ利用モ亦多カラサルナリ然レトモ斯ル暖地ニ在テハ天然ノ破壞力寒地ニ比シテ更ニ多ク且大ナルコトヲ知了セサル可カラサルナリ

第四節 天然物——交換價格ヲ有スル天然ノ賜物

乙 天然ノ賜物ニシテ私有ノ目的物トナリ且同時ニ其分量ニ限リアルヨリシテ交換價格ヲ有スル物ノ中ニハ動カシ得ヘクシテ一定ノ場所ニ滅盡スヘキモノト堅ク土地ニ附著シテ動カシ得ヘカラサルモノ、二種アリ而シテ第一種ニ屬スヘキモノハ例ヘハ或有用ノ目的ニ供用スヘキ動植物及ヒ礦物殊ニ石炭ノ如キ是レナリ就中石炭ハ一國ノ富ヲ致スニ最モ有益ナルモノニシテ昔テフラインクリン氏英國ヲシテ今日ノ殷富ヲ致サシメタルモノハ實ニ石炭ノ力ナリト云フヘシ如ク英國ノ石炭ヲ産出スルコト夥シキハ萬國ニ類例ナキ所ニシテ其石炭ノ恩惠ヲ被ムル莫大ナルハ毫モ疑ヒナキ所ナリ然リ而シテ此等物品ノ動シ得ヘキ性質ノ經濟上ニ與フル利益ハ先ツ石炭ニ付テ之ヲ證明センニ通常採

掘ンテ消費スル石炭ト炭鐵中ニ於テ天然ノ儘ニ燃燒スルモノトノ二者ヲ取テ比較スルニ其炭鐵中ニ燃燒スルモノ、直接ニ利益ヲ與フルモノハ其接近セル場所ニ止マリ且下層ニ至ルニ從ヒ其用ヲ減スヘク又其火力ヲ蓄積シテ之ヲ要スルトキ若クハ要スル場所ニ於テ之ヲ使用セントスルモ到底能ハスト雖モ其採掘シタル石炭ハ人類ノ種々ナル欲望ヲ充スニ適セリ例ヘハ物ヲ乾燥シ或ハ之ヲ烹煮シ或ハ鑄解シ又舟車ヲ駛走セシメ或ハ器械ヲ運轉スル等其功用ノ大ナル地下ノ火力ト同日ノ論ニ非サルナリ又多額ノ石炭ヲ集合シテ使用スルトキハ其火力ハ石炭ノ分量増加ノ割合ヨリ大ナルヲ通常トス例ヘハワット氏ノ蒸氣機關ノ大ナルモノニ在テハ一時間ニ十磅ノ石炭ヲ消費シテ以テ一馬力ニ當ル力ヲ生スルヲ得レトモ僅ニ一馬力ノ小蒸氣ニ於テ其一馬力ヲ生センニハ二十二磅ノ石炭ヲ要スルカ如シ

土地ニ緊著シテ動カス可カラサル天然ノ物件及ヒ勢力ハ假令其物自身ハ使用シテ盡キサルモノナリト雖モ經濟上ノ利用ニ際限アルカ若クハ其利用ヲ増加セントセハ更ニ大ナル困難附從スルモノトス而シテ其利用ニ限リアリトハ例

ニコトアリ余モ當時ハ英國遊學中ニテ之ヲ傍聽セシカ之ヲ聽カントシテ寄リ集フ者ハ重モニ職工等ニシテ其數萬ヲ以テ數フルニ至レリ而シテ此會ノ議長ハ有名ナルバクスター氏ナリシ今當時ノ有様ヲ概言スレハヒンドマン氏ノ言ニ曰ク法律ヲ以テ勞働時間ヲ八時間ニ制限セサルトキハ今日ノ如ク英國勞働者社會ノ憐ムヘキ有様ニ陥リタルモノヲ救済スルコト能ハス又英國工業ノ萎靡シテ振ハサルモ實ニ是勞働時間ノ長キニ基因スルモノナリ今之ヲ八時間トシ職工ヲ精勵セシメナハ勞働社會ノ實際ノ有様ヲ改良スルコトヲ得從テ工業ヲモ亦一層盛大ニ致サシムルコトヲ得ント此說ハ多數ノ贊成ヲ得タレトモ亦之ニ反對ノ說ヲ爲スモノ出來タリブラッドロー氏はナリ氏ハ固ヨリ民權黨中鋒々タル者ニテ又敢テ無力憐ムヘキ勞働者ニ反對シ之ヲ顧ミサル者ニハアラサレトモヒンドマン氏ニ反對シ大ニ之ヲ駁論セリ其說ニ曰ク法律ヲ以テ斯ル事ヲ規定スルハ取モ直サス一箇人ノ自由ヲ損フモノニシテ干涉ノ過キタルモノナリト之ヲ敷衍シテ曰ク今丁年以上ノ職工ノ勞働時間ヲ制限スルハ人ノ自由ヲ檢束スルモノナリ法律ハ人ノ自由ヲ害スル

カ如キコトニマテ立入ルヘキモノニアラスト種々ノ事實ヲ舉ケ制限ノ不可ナルコトヲ立證シ強ク之ヲ反駁セリ而シテ此會ハ敢テ多數決ニ依ルニアラサリシヲ以テ兩人能ク辯論反駁セリ終テ會長ヨリハ一場ノ謝意ヲ表セル演説アリテ閉會シタリキ

左レハ勞働時間ノ制限非制限兩説ハ今日英國勞働社會ヲ動カセツ、アル一大問題ナリトス固ヨリ何レニ決ス可キヤニ至テハ今日豫言シ能ハサル所ナレドモ余ノ見テ以テスレハ社會ノ趨勢ニ逼ラレテ早晚此問題ノ實行セラル、ノ期アラシク是敢テ余ノ妄想ニ依ルニアラス實例ニ照シテ推測ス可キコトナリ試ニ英國植民地ビクトリアノ有様ヲ看ヨ該地ニ於テハ以前ヨリ勞働時間實際八時間ナリシカ近頃ニ至テ始メテ法律ヲ以テ之ヲ公認セリ而シテ今日ニ在テハ土曜日ノ勞働時間ハ五時間トナシ一週ノ勞働時間ヲシテ四十五時間ノ割合ニテサントマテニ至レリ八時間勞働ハ今日實行セツ、アル所ニシテ其結果決シテ悪カラス他ノ競争ニ敗北シ若クハ資本家カ之カ爲メニ非常ニ損失ヲ被リタリトノ事實モナシ此事タルヤ勿論時ト場合トニヨリ一概ニ論定スルコト能ハス

二十

ビクトリアニ於テ右ノ如キ良結果アレハトテ何レノ國ニ於テモ然リト論スルハ不可ナリ是只此事カ實際ニ行ハレツ、アリト云フ一例ニ過キサルナリ

第二編 獨逸ニ於ケル勞働者保護律

本論ニ入ルニ先チ余ハ先ツ諸君カ他日獨乙勞働者保護律ニ關シ特別ニ研究スルニ際シ參考ス可キ書類並ニ法律規則ノ名目ヲ列舉スヘシ
余ノ是ヨリ講述セントスル規定ニ關スル法律規則ノ全文ニ付テハ勿論其草案説明書並ニ北獨逸聯邦議會及ヒ獨逸帝國議會ノ議事録ヲ始メ其他種々ノ學者カナセル工業條例ノ註解及ヒ此問題ニ關スル種々ノ著書ノ外ニ經濟學全體ヲ説ケルロツシエルンヨンベルグ等ノ著書ヲモ參照セサル可カラズ就中尤モ參照セサルヲ得サルモノハ雜誌類ナリ殊ニ一千八百七十一年ヨリ七十六年マテノ「コンコルディア」(Concordia)ト云ヘル雜誌千八百七十九年以後ノ同雜誌及ヒ六十二年以來ノ「勞働者ノ友」(Arbeiterfreund)ト題スル雜誌グナイスト、ヒヨールメルト二人ノ出版等ニシテ其他參考トスヘキモノハ七十二年十月六日及ヒ七日ノ社會

問題ニ關スル「アイゼナツフ」會議ノ議事録七十三年及ヒ七十七年ノ社會政策協會ノ議事録衛生協會監察官ノ報告等ナリトス尙ホ他ニ參考ニ供スヘキモノ多シト雖モ其重要ナルモノハ以上記載セルモノナリ特ニ一言ヲ要スルハ此問題ニ關シテ二人ノ有名ナル者アルノ一事ナリ二人トハコーン氏其雜誌上ノ議論トブレンタノー氏其著書トナリ二氏ハ此問題ニ付テ有益ナル著書ヲ出シタルモノナリ又獨逸今日ノ經濟學者ニシテ此問題ニ付キ意見ヲ抱カサルモノアラサルナリ

第一章 沿革

第一項 緒言

獨逸國ノ勞働者保護律ノ一部ハ已ニ彼ノ特典組織制度ノ頒行ハレタル原則ニ基クモノナリ前世紀ノ工業制度ニ據レハ總テノ起業者ト其助手並ニ徒弟トノ間ヲ規定スルモノハ決シテ只相互自由ノ契約ニ任セス雙方ノ權利義務ヲ明カ

ニスル所ノ一般規定ノ設定ハ其頃已ニ之アリシノミナラス特典會社並ニ地方ノ習慣等アリテ契約ニ干涉スルノ區域ハ頗ル廣カリシナリ例セハ雇主ハ第一徒弟ヲ能ク養育セサル可カラサルノミナラス助手ニ對シテモ其一舉一動皆制限ノアラサルハナカリキ是等ノ原則ハ獨逸ニ於テ農工商ノ自由尤モ盛ナリシ時代ニ於テモ決シテ消滅セシコトナク現今ノ規定ハ只從前ヨリ存在セシモノヲ公認セルニ過キササルナリ

此ニ所謂勞働者保護律ハ今述ヘタルカ如キ古キモノニハアラス(其精神ノ基ク所ハ古キニモセヨ)全ク近世ノ產物ニシテ今世紀ノ四十年頃獨逸ニ於テ關稅同盟ノ設ケラレシ後起リシ工業大進歩ノ結果ナリ夫レ然リ而シテ夫ノ工業進歩シ大工業盛大ニナリ從テ分業モ同時ニ烈シク行ハル、ニ至リ經濟上ノ美果ト共ニ其弊害モ從テ起リ諸方ノ工場ニ於テ幼者ヲ使役スルコト酷クシク其極立法者ノ認ムル所トナリ法律ノ干涉ヲ必要トシ遂ニ此保護律ノ發生ヲ致サシムルニ至レリ略言スレハ獨逸ニ於テハ勞力者ト雇主トノ關係ニ付テ已ニ特典會社組織制度ノ時代ニ於テ幾分カ法律ノ性質ヲ帶ヒタル保護ノ道アリシモ勞働

者保護律ハ其後ニ至リテ起リシモノナリト云フニ過キス
 因ニ言フ特典會社組織トハ要スルニ今日ノ營業自由ノ制度ニ反シタルモノ
 ニシテ我國ノ講トカ講中トカ云フ制度ニ似タル組合ノ性質ヲ帯ヒタルモノ
 ニシテ總テノ營業カ此制度ニ依リテ成立シ、時代ヲ稱シテ特典組織時代ト
 云フ則チ各人カ法律ノ範圍内ニ於テ自由ニ如何ナル業務ニテモ營ミ得ルノ
 制度ニ反對スルモノナリ

第二項 プロイセイシニ於ケル勞働者保護律ノ沿革

勞働者保護ニ關シテプロイセイシ國ノ法律ハ新ニ一機軸ヲ出シタルモノニシテ
 他國ニ對シテモ善キ模範ヲ與ヘタルモノナリ夫ノ前世紀ノ終ニ起リシプロイ
 セシノ普通法典ハ當時一般ニ行ハレタル雇主ト助手並ニ徒弟トノ間ノ關係ヲ
 規定スル法則ヲ編纂シテ之ヲ其第二編第八章第二百七十八條ヨリ四百條マテ
 ノ間ニ置ケリ是レ其項一般ニ行ハレシ普通ノ狀態ニヨリテ制定シタルモノナ
 リ此規定ニ依レハ助手並ニ徒弟ナル者ハ共ニ雇主ニ服從セサル可カラサルモ

二十

二十五

民法財産編第一部(物權)

法學士 兩角彦六講義

緒言

汎ク財産法ト稱スルトキハ通常人事法ニ對應シテ用フルノ稱呼ニシテ此意義
 ヲ以テスルトキハ財産ノ取得、債權ノ擔保亦皆此名目ノ中ニ包括セラルヘク凡
 ソ民法中人事法以外ノモノハ一ニ皆財産法ニ非サルコトナシ故ニ近世歐洲諸
 國ノ法律ハ多クハ民法ヲ分チテ人事法ト物件法即チ財産法トニ類別セリ而シ
 テ始メテ此分類ヲ爲セルモノハ羅馬五法曹ノ隨一ナルガイユス氏ニシテ其著
 「インスチチュート」即チ教科書ニ之ヲ掲ケヨニスチニヤン帝ノ「インスチチュート
 法典」ニモ此分類ヲ寫シ來レルヨリシテ爾來羅馬法ヲ繼受シタル歐洲諸國ハ多
 クハ此分類法ヲ採用セリ

新民法ハ此財産ニ關スル部分ヲ三編ニ分チ第一チ財産編トシ第二チ財産取得編トシ第三チ債權擔保編ト爲セリ凡ソ權利義務ハ之チ規定スルニ當リテモ之ヲ講究スルニ當リテモ二様ニ觀察スルコトヲ得ヘシ第一ハ其權利義務ノ性質ヲ動かサルモノト看做シ權利義務其物ヲ論スルモノニシテ例ヘハ所有權ハ物件ヲ使用シ收益シ處分スルノ三權ヨリ成立シ地役トハ不動産ノ利益ノ爲メニ他ノ不動産上ニ設定セラレタル負擔ナリト論スルカ如ク即チ稱シテ權利義務ノ靜態トモ云フヘキモノナリ第二ハ權利義務カ人ニ屬シ人ヲ離レ一人ヨリ他人ニ移轉スル有様ヲ論スルモノニシテ語ヲ換テ言ヘハ權利ノ動態トモ云フ可キモノナリ新民法財産編ハ即チ主トシテ權利義務ノ靜態ヲ規定シタルモノニシテ其財産取得編ハ權利ヲ獲得スルノ方法即チ其動態ヲ規定シタルモノナリ然レトモ成文法規定ノ序次ハ必スシモ學理上ノ序次ニ從フヲ得ヘキモノニ非ス蓋シ法律上ノ事項ノ既ニ錯綜シ相牽聯スルノミナラス之チ成文ニ編叙スルニ當リテハ實際ノ應用ニ制セラレテ大ニ顧慮スヘキモノアレハナリ故ニ諸君ハ權利義務ノ靜態ヲ規定スル財産編ニ於テ傍ラ其獲得消滅ノ方法ヲ掲クルコ

トアルヲ見ルナルヘク取得ノ方法ヲ規定スル財産取得編ニ於テ同時ニ消滅ノ方法ヲ定ムルコトアルヲ見ルヘシ實ニ勢免カル能ハサルモノアルナリ而シテ新法ハ第三編ニ至リテ債權擔保ノコトヲ規定セリ蓋シ擔保ハ附從ノ義務ニシテ物上擔保アリ對人擔保アリ其種類モ少カラス故ニ斯ク別ニ編ヲ設ケタルモノナリ
以上ハ即チ財産法ナル文字ヲ廣ク解シタル意義ノ中ニ入ルヘキ部分ナリトス然ルニ新民法ハ更ニ最後ノ一編ニ於テ證據法ヲ規定セリ證據法固ヨリ財産編ニ關係スルニ相違ナキモ單ニ財産法ノミナラス廣ク一般民事上ニ關スル證明ノ方法手段ヲ規定シタルモノナリ然ルニ今佛國法典ヲ見ルニ其證據法ニ冠シテ義務及ヒ辨濟ノ證明ト題シ之チ契約法ノ下ニ列載セリ恰モ證據法ヲ以テ單ニ契約ヨリ生スル義務ノミヲ證明シ且ツ單ニ義務消滅ノ方法中辨濟ノミヲ證明スルニ過キササルモノ、如ク思惟セシムルノ嫌アリ新法カ此順序ニ依ラス證據法ヲ以テ獨立ノ一編ト爲シタルハ排序ノ宜シキヲ得タルモノト云フ可シ然レトモ此證據法ヲ以テ依然民法中ノ一編ト爲スニ付テハ學理上多少非難スヘ

キモノナキニ非ス此事ハ別ニ茲ニ述フルノ要ナキカ如キモ序ナカラ一言置ク可シ凡ソ法律ナルモノハ徒ラニ權利義務ヲ規定シタルノミニテハ足ルモノニ非ス必スヤ其權利ヲ侵シ義務ヲ怠ルニ當リ制裁ヲ加ヘテ以テ其法律ヲ執行セシムルノ法ナカルヘカラス然ラサレハ法律ハ徒法ノミ死律ノミ之ヲ換言スルニ法律ノ目的ハ敢テ各人ノ分ヲ定ムルニ止マラス更ニ進テ各人ヲシテ各分ヲ得セシムルニ在リ權利義務ヲ定メタルノミニテハ僅カニ分ヲ定ムルノミ之ヲ侵シ之ヲ怠ルニ當リテ制裁ヲ加ヘテ法律ヲ執行セシメ始メテ分ヲ得セシムルモノト云フ可キナリ此故ニ民法アリ以テ權利義務ノ如何ヲ規定シ訴訟法アリ以テ其救正ノ方法ヲ規定ス故ニ民法ハ主法ニシテ訴訟法ハ正ニ助法ナリ主助相待テ始メテ完全ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ夫レ然リ證據法ハ果シテ權利義務ヲ規定シタルモノト云フコトヲ得ヘキカ寧ロ權利義務ノ争訟ニ關シテ裁判官カ決斷ノ區域ヲ定メタルコト尙一般訴訟法カ訴訟ノ手續方法ヲ規定シタルニ異ナルコトナキニ非スヤ即チ證據法ハ其性質訴訟法ニ屬ス可キモノニ非スヤト云フニ在リ此ハ是レ排序上ノ議論ノミ既ニ獨立ノ一編タル以上ハ

或ハ見テ民法トスヘシ或ハ訴訟法ナリトス可シ深ク非難スルノ價值ハナキナリ
右ハ財産ニ關スル法律ニ付キ其分類ヲ説明セルモノナルカ試ニ此財産法ト汎稱シ得ヘキ部分ヲ以テ人事編ニ對照セヨ彼ハ僅カニ五百條ニ上ラス而シテ此ハ實ニ千有餘條ニ達セリ之ヲ古代ノ法律ニ照スニ全ク反對ノ觀ヲ呈セルモノ果シテ如何ナル理由アル乎蓋シ古代ニ在リテハ一國ノ原子ハ一箇人ニアラスシテ一家ナリシカ故ニ財産ハ悉ク其一家ノ首長ニ屬シ近世ノ法律ノ如ク家父ノ權利ト財産權トハ互ニ分離スルコトナク婦女奴隸ハ自ラ財産ヲ有スルコトヲ得ス恰モ土地牛羊ノ如ク一ニ家長タル者ノ財産ニ外ナラス家長ハ之ニ對シテ生殺與奪ノ十全ナル權利ヲ有シタリキ即チ家長權ノ外ニ財産アルコトナク家長ノ權利ハ家族財産ヲ所有シテ之ヲ處分スル十全ナル權利ナリシナリ從ツテ此時代ニ在リテハ法律ノ規定スル所ハ家長ノ權利ヲ定メ其身分其地位ヲ定ムルニ過キサリシカ故ニ當時ノ法律ハ主トシテ身分法ニ屬スルモノタリ然ルニ爾來農商業ノ發達スルニ從ヒ又一箇人ノ權利漸ク發生スルニ從ヒテ家族子

弟ト雖モ獨立シテ財產ヲ私有スルコトヲ得ルニ至リ漸ク財產所有ノ權利ト家長ノ權利ト互ニ分離スルノ端緒ヲ開キ其後家族制度ノ基礎漸ク破レ一箇人ノ資格發達スルニ從ヒ商工業ノ益、進歩スルヨリ財產ノ賣買ニ讓與ニ益、頻繁ヲ加ヘ遂ニ財產法ノ必要ハ益、増加シ人事法ノ範圍ハ漸ク縮少シテ遂ニ今日ニ在リテハ全ク往時ト反對ノ觀ヲ呈スルニ至レルナリ是レ沿革法理ノ原則上法律ハ命令法ヨリ許容法ニ進ム所以ノ一例トスル所ニシテ蓋シ人事法ハ主トシテ命令的ノ法律ニ屬シ財產法ハ之ニ反シテ許容的ノ法律ニ屬スヘキモノナルカ故ナリ

以上ハ財產編ノ講義ニ入ルニ先チテ一般ニ關スル概想ヲ一言セルノミ請フ是レヨリ本論ニ入ラン

總則 財產及ヒ物ノ區別

一法科ヲ制定スルニ當テハ先ツ其全體ニ亘リテ其基本タル可キ規定ヲ下スコトヲ要ス總則ナルモノ即チ是ナリ故ニ此總則ニ規定スル所ハ財產編ヲ包括シ

三十一

三十一

テ其基本ヲ示シタルモノナリ否唯リ財產編ノミナラス財產編以下新民法ノ全體ニ亘リテ必ス先ツ知得セサル可ラサルノ事項タリ即チ先ツ第一ニ知ラサル可ラサル財產ノ本義ト其區別及ヒ財產即チ權利カ物ノ異ナルニ從テ其様ヲ變スルヨリ其之ヲ變スル物ノ區別ヲ掲ケタリ故ニ總則ハ之ヲ二章ニ別ツ可シ

第一 財產ノ定義並ニ其區別

吾人ノ財產ト稱スルモノハ如何ニ定義ヲ下ス可キカ古來學者ノ所說一樣ナラス

或ハ曰ク財產トハ權利ノ目的トナリ得ヘキ物件ナリト其言ニ曰ク凡ソ天地間ニ存在スル物有機ト無機トナ問ハス又有形無形ニ論ナク一トシテ物ナラサルハナシ然レトモ凡ソ物悉ク權利ノ目的トナリ得ヘキモノナラス彼ノ太陽ノ如キ若クハ空氣ノ如キ洋海ノ如キ吾人ノ必要物ニハ相違ナキモ其性質上吾人ハ之ヲ私有スルコトヲ得ス即チ吾人カ權利ノ目的物トナスコトヲ得サルモノナリ或ハ稱シテ人類一般ニ屬スルモノト云フコトヲ得ヘシト雖モ既ニ吾人カ獨先シテ之ヲ私有スルコトヲ得サル以上ハ法律上之ヲ財產ナリト云フコトヲ得

ス此故ニ財産ハ固ヨリ物ナルモ物ハ必スシモ財産ニ非ス物トハ總括ノ稱ニシテ
 財産トハ其部稱ナリ換言スレハ物ハ廣ク全體ヲ指シ財産ハ物ノ一部ニシテ
 權利義務ノ目的トナリ得ヘキ物ノミノ謂ナリト是レ尤モ普通ニ行ハル、ノ定
 義ニシテ伊民法既ニ之ヲ掲ク公私所有權ノ目的タルコトヲ得ヘキ物ハ總テ財
 産ナリ然レトモ新民法ハ斯說ヲ採ラス
 或ハ又曰ク財産トハ權利ノ目的物ナリト蓋シ物ニシテ權利ノ目的タルコトヲ
 得サル以上ハ財産タルコトヲ得サルコト固ヨリナリト雖モ權利ノ目的トナリ
 得可シ直チニ財産ト云フコトヲ得ス彼ノ空ニ翔ル鳥海ニ住ム魚ハ能ク權利
 ノ目的物タルコトヲ得ヘシ然レトモ其大空ニ翔翔シ蒼海ニ游泳スルニモ拘ハ
 ラス之ヲ吾人ノ財産ナリト云フコトヲ得ヘキヤ之ヲ捕獲シ之ヲ私有シテ始メ
 テ吾人ノ財産ト稱スルコトヲ得可シ故ニ財産トハ權利ノ目的トナリ得ヘキ物
 ニ非スシテ既ニ吾人ニ屬シタル物件ナリト然レトモ新民法ハ斯說モ採用セス
 蓋シ物ニハ到底權利ノ目的タルコトヲ得サルモノト又未タ權利ノ目的トナラ
 サルモノトアリ前者ハ決シテ財産タル能ハサルモノニシテ前二說ノ共ニ認ム

三十一

三十二

ル所ナルカ後者モ亦之ヲ財産ト云フ能ハス而シテ之レ第二說ノ取ル所ナリ然
 レトモ第二說カ權利ノ目的物ヲ以テ直ニ之ヲ財産ナリト云フハ決シテ其當ヲ
 得タルモノニテラス何トナレハ吾人ニ利益ヲ與フルモノハ目的物其物ニアラ
 スシテ目的物ノ上ニ存スル權利ナレハナリ例ヘハ余カ一ノ土地ヲ所有ストセ
 ハ予ハ即チ一ノ財産ヲ有セル者ナルモ其財産ハ決シテ土地其物ニアラスシテ
 土地ノ所有權即チ物權カ予ノ財産ナリトス何トナレハ若シ其土地ヨリシテ所
 有權ナル觀念ヲ分離セハ其土地ハ全ク予ニ屬セサルモノトナリ從テ予ハ之ヨ
 リ何等ノ利益ヲモ得ル能ハサレハナリ又予カ或者ヨリ一箇ノ物件ヲ受取ル可
 キ約束アリトスルモ然リ其物ハ尙ホ或者ノ所有ニ屬スルカ故ニ之ヲ指シテ予
 ノ財産ナリト云フ能ハサルモ予ハ其人ニ對シテ其物ヲ請求スル權利アリ此場
 合ニ於テハ予ニ利益ヲ與ヘ予ノ財産タルヘキモノハ其物ニアラスシテ物ヲ請
 求スル權利ナルコト明カナリ之レ即チ財産編開卷第一條ニ掲ケアル定義ノ由
 テ來ル所ニシテ第一條ニ曰ク財産ハ各人又ハ公私ノ法人ノ資産ヲ組成スル權
 利ナリト故ニ財産トハ敢テ權利ノ目的トナリ得ヘキモノニモアラス又權利ノ

目的物ニモアラス權利其物ナリトス蓋シ權利ナルモノハ本來法律上吾人ノ有
 スル利益ニシテ吾人ナリシ吾人ヲ益スルモノニシテ初メテ吾人ノ財産ト稱ス
 ルコトヲ得ヘク權利ナル觀念ヲ除ケハ吾人ハ其物ヲ左右シ處分スルコト能ハ
 サル可キナリ

財産ハ權利ナリト云フヨリシテ必然ノ結果トシテ一切ノ財産ハ悉ク無體物ナ
 リト云ハサル可カラス何トナレハ權利ナルモノハ吾人ノ感官ヲ以テ識得スル
 能ハス單ニ智能ノミヲ以テ理解シ得ヘキモノナルカ故ニシテ是レ第六條ニ於
 テ法律ノ明カニ規定スル所ナリ

財産ハ權利ナルモ權利ハ必スシモ財産ナリト云フ可カラス彼ノ選舉權被選舉
 權又ハ官吏ト爲ルノ權等所謂公法上ノ權利ノ如キ又夫債權等所謂身分上ノ
 權利ノ如キ何レモ權利ナルモノナリ以テ財産ナリト云フコトヲ得ス然ラハ此種
 ノ權利ト財産トノ別如何予ハ金錢上ノ利益ヲ與フルト否トナリ以テ區別スルナ
 至當ナリト考フ凡ソ權利ナルモノハ已ニ述ヘタル如ク法律ノ保護スル吾人ノ
 利益ニシテ權利トシ云ヘハ必ス利益ナラサルモノナクオースチン氏ノ言ヘル

三十五

如ク自己ノ不利益トナル權利ナルモノハ殆ント想像スルコト能ハス然レトモ
 均シク利益ヲ與フルトスレモ其利益ニハ金錢上ニ屬スルモノト否トアリ夫債
 權結果シテ金錢上ヨリ何程ノ利益ヲ與フルヤ到底之ヲ金錢上ノ利益ニ見積ル
 コト能ハス之ニ反シテ予カ今一棟ノ家屋ヲ有ストセハ吾人ハ之ヲ評價シテ果
 シテ何程ノ利益ヲ與フルヤハ直ニ知ルヲ得ヘシ財産即チ權利ハ此金錢上ノ利
 益ヲ與フル權利ニ限ル第一條ノ定義ニ資産ヲ組成スル權利ナリトアルハ即チ
 此意味ヲ示シタルモノナリ然レトモ茲ニ一言セサル可カラサルハ資産(パトリ
 モアース)ナル文字之ナリ通常之ヲ解スル者ノ言ニヨレハ資産トハ財産ノ集合
 體ナリ一人ニ屬スル財産ヲ包括シ其一團體ヲ指スト云ヒ或ハ財産及ヒ債務ヲ
 包括シタル一團體ナリト云ヘリ果シテ此ノ如ク解セハ之レ所謂以問爲答ニシ
 テ論理上ノ循環論法ト稱スルモノナリ即チ財産ハ資産ヲ組織スル權利資産ハ
 財産ノ集合ナリト云フ時ハ決シテ財産ノ何物タルヤニ答ヘタルモノニ非ス而
 モ法律ノ意味スル所ハ予カ述タル金錢上ノ利益ト云フニ外ナラサルナリ
 尙ホ第一條ノ定義ヲ見レハ各人又ハ公私法人ノ云々トアリ之レ即チ財産即チ

權利ノ主格ヲ示シタルモノナリ蓋シ權利ナルモノハ一人カ外部ニ對スル關係ナルカ故ニ之カ主格タル人アラサレハ發生スルノ理ナシ一棟ノ家アルモ之レ單ニ一箇ノ物ナリ未タ所有權ナルモノアラズ人來リテ之ヲ所有シ始メテ所有權生ス故ニ權利ニハ必ス主格アリ而シテ其主格タルヘキモノハ必ス人ニ限リ又人タレハ可ナリ只生存ナル一條件ヲ要スルノミ而シテ此點ハ前述セル如ク古今其規ヲ異ニスル所ニシテ古代ニ在テハ奴隸婦女及ヒ未丁年者ノ如キハ法律上權利ノ主格タル能ハサルモノナリシカ今日ハ然ラス苟モ人タル以上ハ權利ノ主格タルヲ得ルノミナラス未タ慈母ノ胎内ニ在ル者ト雖モ其後生命ヲ存シテ出生シタル以上ハ其胎内ニ在ル日ニ遡テ能ク權利ノ主格タルヲ得ルコトアリ之レ即チ財産相續ノ場合ニ見ル所ニシテ蓋シ近世一般ノ法理ノ認ムル所ナリ然レトモ法律上人ト稱スルハ唯ニ肉體ヲ具フル有形人ノミニ限ラス或集合體ヲモ法律ノ擬制ニヨリテ人ト見做シ其集合體ヲ組成スル者ヲ離レテ別ニ權利ヲ有シ義務ヲ負ハシムルコトアリ法人即チ是ナリ而シテ其法人ト名クル所以ハ法律ニ認メラレテ始メテ人格ヲ得ルモノナレハナリ

法人ニ二種アリ即チ其法人ノ代表スル利益ニ依テ區別ス公共ノ利益ヲ代表スルモノ之ヲ公法人ト稱シ國府縣郡市町村等之ニ屬シ一私人ノ利益ヲ代表スルモノ之ヲ私法人ト云フ即チ商事會社ノ如シ又民事會社モ當事者ノ意思ニ依テハ之ヲ法人ト爲スコトヲ得可シ茲ニ注意シ置クヘキハ法人ハ必スシモ有形人ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノニ非サルコト是ナリ之ヲ有スルハ單ニ財産上ノミニ關シ身分上ノ權利ノ如キニ至テハ到底法人ノ有スル能ハサル所ナリ尤モ公法上ノ權利ニ在テハ或場合ニ例外ナキニアラス例ヘハ市町村制ニ於テ法人タル會社カ選舉權ヲ有スル如キ之ナリ然レトモ之レ畢竟例外ノコトニ屬ス「財産ノ何物タルヤハ以上述フル所ノ如シ諸フ是ヨリ財産ノ區別如何ヲ說カシ」財産即チ權利ハ之ヲ別テ人權及ヒ物權ノ二トス即チ第二條及ヒ第三條ニ掲ル所ニシテ兩條ハ之ヲ對照シテ説明シ以テ人權ト物權トノ別ヲ明カニスルコトヲ要ス所謂物權トハ直ニ物ノ上ニ行ハレ且總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ニシテ人權トハ或義務ヲ盡サシムル爲メ特定ノ人ニ對シテ行ハル、權利ナリトハ最モ古ク又最モ普通ニ行ハル、ノ定義ナリトス例ヘハ予ニシテ一腳

ノ机ト一枝ノ筆トチ有ストセハ予ハ更ニ他人ノ手チ借ラスシテ直ニ其物ノ上ニ權利ヲ行フコトヲ得可ク之ヲ使用シ之ヲ処分スルハ全ク予ノ随意ニシテ他人ハ毫モ之ニ干渉スルコト能ハス苟モ予ノ權利ヲ妨ル者アラシカ予ハ其何人タルヲ問ハス之ニ向テ予ノ權利ヲ對抗スルコトヲ得可シ是レ予ハ所有權即チ物權ヲ有スルカ故ナリ之ニ反シテ予若シ甲者ヨリ金錢ノ返濟ヲ受ル權利アリトセハ予ハ甲者ノ手チ經ルニ非サレハ予ノ權利ヲ行フコト能ハス又予ハ甲者ニ要約スルニ予ト同町内ニ於テ同營業ヲ爲サ、ルコトヲ以テセハ予ハ甲者ニ對スルニ非サレハ其權利ヲ主張スルコト能ハス是レ金錢請求ノ權利營業ヲ爲サシメサルノ權利ハ皆人權ニシテ即チ特定ノ人ニ對スル權利ナレハナリ今此兩權ヲ對照スルニ左ノ如キ差異アリ

第一、物權ハ直接ニ物ノ上ニ行ハル、權利ナル故權利ヲ行フヘキ主タル人ト權利ノ目的物トノミニテ能ク其關係ヲ示スコトヲ得即チ予カーノ物ヲ所有スト云ハ、夫レノミニテ予カ其物ノ上ニ有スル權利ヲ充分ニ表明スルコトヲ得可ク之ニ反シテ人權ハ人ニ對シテ直接ノ關係ヲ有シ物ニ對シテハ間接ノ關係ヲ

有スルニ過キサレハ權利ノ主タル人即チ債權者ト權利ノ客タル人即チ債務者ト及ヒ權利ノ目的物ノ三者具備スルニ非スハ權利ヲ表明スル能ハス例ヘハ予ハ金錢請求ノ權利ヲ有スト云ヒタルノミニテハ毫モ其意味ヲ成サス必スヤ予ハ何人ニ對シテ請求ヲ得ルヤチ言ハサル可カラサルカ如シ然レトモ此差異ハ唯表明方法ノ異ナルノミニシテ若シ斯ノ如ク異ナルカ故ニ物權ニハ權利ノ客タルヘキモノ即チ義務者ナシト論スルハ誤謬ノ甚シキモノナリ物權ハ總テ人ニ對抗スルコトヲ得ル權利ナル故總テ人ハ此權利ヲ對抗セラルヘキ地位ニ立テリ即チ物權ヲ侵サ、ルノ義務ヲ負フモノナリ

第二、物權ハ直接ニ物ノ上ニ行ハル、權利ナル故此權利ヲ有スル人ト目的物ヲ所持スル者ノ何人タルヲ問ハス其人ニ就テ之ヲ追求スルコトヲ得可シ而カモ其目的物ノ所持人カ追求セラル、ハ債務者タルノ故ニアラスシテ其物ノ所持人タル故ナリ之ニ反シテ人權ニ於テハ決シテ追求權ナルモノナク必ス特定ノ人ニ對シテ行フ可キモ他人ニ對シテ行フコトヲ得ヘキモノニアラス

第三、物權ハ一般ノ者ニ對抗スルヲ得ル權利ナル故一般ノ者ハ之ヲ侵害セサル

ノ義務ヲ有ス即チ不作爲ノ義務ヲ負フ之ニ反シテ人権ニ對スル義務ハ或ハ作爲ノ義務ナルコトアリ辨濟ノ義務物件引渡ノ義務ノ如シ又或ハ不作爲ノ義務ナルコトアリ前例同町内ニテ或營業ヲ爲サ、ルコトヲ約スルカ如シ

第四、物權ハ必ス特定物ノ上ニ存スル權利ニシテ特定セサル物ノ上ニ存スルコトナシ之ニ反シテ人権ハ特定セサル物ノ間ニモ存スルコトヲ得故ニ例ヘハ予カ一物ヲ所有スト云フ場合ニハ必ス此物トカ彼物トカ一定ノ物ヲ舉示セサル可カラス若シ甲者カ乙者ニ其所有地中ノ若干坪ヲ賣渡サンコトヲ約束シタル場合ニハ雙方ノ協議ニ依リテ其部分ヲ一定シタル後ナラテハ所有權移轉セス而シテ之ヲ定ムルマテハ乙者ハ甲者ニ對シテ義務履行ヲ請求シ得ルト云フ一人権ヲ有スルノミナリトス

第五、物權ハ人ニ關係セサルカ故ニ苟モ其目的物ニシテ存在スル以上ハ權利ハ安全ニシテ充分ニ利益ヲ生シ他人ノ貧富ハ毫モ物權所有者ノ利益ニ影響スル所ナシ之ニ反シテ人権ハ如何ナル場合ニ於テモ必ス他人ヲ俟テ始メテ利益ヲ生スルモノナリ故ニ若シ債務者ニシテ無資力ナランニハ少シモ其權利ノ利益

其以前ニ生シタル事ニハ適用ス可カラスト云フニアリ之レ一見甚タ解シ易キノ道理ニシテ蓋シ法律ナルモノハ吾人行爲ノ規則ニシテ其性質上或ハ命令シ或ハ禁止シ或ハ許容スルモノナルカ將來ノ事實ニ關スレハコソ之ヲ命令シ之ヲ禁シ將タ之ヲ許スコトヲ得レトモ既往ノ事實ニ至リテハ焉ソ之ヲ命令シ禁止シ許容スルコトヲ得ンヤ未タ爲サ、ルコトハ法律ニ從フコトヲ得ヘント雖モ已ニ爲シタルコトハ最早如何トモスルニ由ナシ故ニ法律ノ性質ヨリ見ルモ法律ハ其效力ヲ既往ニ及ス可カラサルコト明カナリ加之ナラス昨日舊法ノ下ニ得タル吾人ノ權利カ今日新法ノ爲メニ忽チニシテ剝奪セラレ昨日舊法ノ罰セサル所爲ヲ行フタルニ今日新法ニテ之ヲ罰セシムルトセハ吾人ハ一日トシテ生命財産ノ安全ヲ得ルコト能ハサル可キナリ此故ニ法律ハ既往ニ遡リテ效力ヲ有セストノ原則ハ之ヲ法律ノ性質ヨリ見ルモ實際ノ效用ヨリ見ルモ實ニ動カス可カラサルノ條理ナリトス

然レトモ此原則タルヤ單ニ法律ノ適用上ニ關スルモノニシテ絶ヘテ憲法上ノ原則ニハアラス詳言スレハ法律適用ノ任ニ當ル所ノ裁判官ノ爲メニ設ケタル

モノニシテ敢テ立法者ヲ拘束スルノ原則ニハアラス蓋シ立法者ハ時勢ニ鑑ミ人情ニ應シテ随分既往ニ效力ヲ及スヘキ法律ヲ制定スルノ必要ヲ感スルコトナシト云フ可カラス已ニ其必要アレハ之ヲ制定スルノ權力ノ立法者ニ存スヘキコトハ元ヨリ當然ノコトナリ尤モ此權力ヲ濫用シテ法律ノ效力ヲ既往ニ及スニ至リテハ其弊害又言フニ忍ヒサルモノアリ立法者ト雖モ此權力ヲ應用スルニ當リテハ須ラク周到慎重ナル注意ヲ加ヘサル可カラサルコト勿論ナリト雖モ爲メニ立法者ヲ箝束シテ立法者ニ此權力ナシトスルハ取リモ直サス立法者ニ立法權ヲ剝奪シ若クハ之ヲ制限スルモノニシテ甚タ謂ハレナキノコトナリ故ニ今日ニ在リテハ此法律不遑及ノ原則ハ一ニ法律適用上ノ原則ナリトシ何レノ國ニ於テモ之ヲ憲法上ノ原則トシテ掲ルモノナシ唯一ツ佛國革命時代共和第三年ノ憲法ニハ既往ニ遡ルヘキ法律ヲ設タルコトヲ禁止セリ之レ從來ノ立法者カ此權力ヲ濫用シタル反動ニ出タルニ外ナラズ然レトモ其後共和第八年ノ憲法以來ハ右ノ原則ヲ以テ法律ノ制定上ニ關スルモノト爲サスシテ單ニ其適用上ニノニ關スル規則ト爲セリ(佛國民法前加編第二條)

此故ニ法律ノ適用ヲ任トスル裁判官ハ一事件ノ法廷ニ提起セララル、ニ當リテハ果シテ其事件ハ新法ノ實施以後ニ起リタルモノナルカ或ハ其以前ニ生シタルモノナルカヲ見テ前者ノ場合タラハ新法ヲ適用シ後者ノ場合タラハ舊法ニ依リテ裁判セサル可カラス斯ノ如ク概言シ去ルトキハ他又説明ノ要スヘキナク極メテ簡單ナル原則ナルカ如シト雖モ實際ニ之ヲ應用スルニ方リテハ此原則程困難ナルモノハアラス何トナレハ凡ソ物ニハ本末アリ事ニハ終始アリ一事件起リテ其結末ヲ見ルニ至ルマテハ必スヤ多少ノ時間ヲ經過セサル可カラズ故ニ一事件カ新法ナリ舊法ナリ其一法ノ下ニ於テ始末完結シタル時ハ適用上少シモ困難ナカルヘシト雖モ或ハ新舊兩法ニ跨リテ舊法ノ下ニ始マリ新法發布後ニ終リ若クハ舊法ノ下ニ於テ事實ハ完結シタルモ新法發布後ニ至リテ漸ク其效果ヲ發生シタル如キコトナシトセス例ヘハ遺囑贈與ヲ爲シタルニ其遺贈ヲ爲シタル日ト遺贈者ノ死亡シタル日トノ間ニ一ノ新法發布セラレテ遺囑贈與ニ關スル規定ヲ變更シタリシトカ或ハ舊法ノ下ニ於テ買賣契約ヲ結ビタルニ新法發布後マテ其執行ヲ爲サ、リシ如キ場合ニ於テハ新舊兩法何レヲ

適用シテ然ルヘキヤ立法者ハ時ニハ自ラ之ヲ指定スルコトアリト雖モ又全ク不問ニ措クコトナシトセス斯ル場合ニ於テ舊法ノミニ依ランカ新法ノ下ニ連繫スルヲ如何セン新法ノミニ依ランカ舊法ノ下ニ始マリタル事ナルヲ如何セシ二者擇一ノ標準果シテ那ノ點ニ在リヤ

此點ニ付テハ議論極メテ多ク學者ノ所說實ニ亦一様ナラスト雖モ今予ハ最も普通ニ行ハル、所ノ學說ニ從ヒ簡單ニ說明シ行ント欲ス

夫レ法律ノ目的ハ權利ヲ保護スルニアリ權利ヲ保護スルハ即チ社會ヲ維持スル所以ニシテ苟モ權利ノ保護ナキカ生命財産ノ安全ハ得テ望ム可カラズ社會ハ一日トシテ持續スル能ハサル可シ法律カ其效力ヲ既往ニ及ホル、ル所以モ亦茲ニ存シ舊法ノ下ニ於テ吾人カ正當ニ取得シ來リタル權利ヲ毀傷シ侵害セシメサルカ爲メニ外ナラス故ニ新舊法其一ヲ適用スヘキノ標準ハ他ナシ既得ノ權利ノ存スルト存セサルトニアリ苟モ既得ノ權利ヲ害セサル以上ハ其事件ハ舊法ノ下ニ初リタルニセヨ之ニ新法ヲ適用シテ敢テ妨ケナシ之ニ反シテ新法ヲ適用シタル爲メニ既得ノ權利ヲ損スル場合ニ於テハ須ラク舊法ニ依リテ

裁斷セサル可カラズ實ニ立法者カ新法ヲ制定シタル所以ノモノハ舊法ヲ以テ不都合ナリト認メタルカ故ニシテ新法ハ之ヲ舊法ニ比シテ固ヨリ善良ノモノト見做サ、ル可カラズシテ良法嘉律ハ可成速カニ之ヲ適用スルコト國家ノ利益ナルカ故ニ之ニ適用シテ或ハ爲メニ一箇人ノ利益ヲ傷フコトナキヲ保セサルモ苟モ權利ヲ害セサル以上ハ敢テ其適用ヲ阻止スルヲ要セス何トナレハ一私人ノ利益ハ公共ノ利益ニ讓ラサル可カラサレハナリ有名ナル比耳義大學ノ博士ローラン氏曰ク法律ニシテ國民ノ利益ヲ剝奪センカ社會ノ生存望ム可カラズ法律ニシテ一箇人ノ利益ヲノミ尊重セサル可カラストセンカ社會ハ同シク持續スルコト能ハスト

是ニ由リ之ヲ觀レハ新舊兩法中其一ヲ適用スルノ相岐ル、所ハ實ニ權利ト利益トノ間ニ在リト云ハサル可カラズ果シテ然ラハ權利ト利益トノ間ニハ如何ナル區別アリヤ權利ノ何タルコトハ諸君已ニ他ノ講義ニテ知ル所ナランカ要スルニ吾人ノ有スル權能ナリ而シテ此權能ハ或ハ國民分限、親子ノ關係ヨリ生ス之ヲ身分上ノ權利ト云フ或ハ金錢上ノ利益ニシテ吾人ノ資産ノ一部ヲ爲ス

モノアリ財産上ノ權利之ナリ例へハ吾人カ舊法ノ下ニ於テ適法ニ結婚シ依テ夫婦タルノ身分ヲ得タリトセンニ新法出テ、結婚者ノ能力ヲ變更スルモ爲メニ吾人カ得タル夫婦タルノ身分ハ生涯永ク之ヲ消滅セシムルコト能ハス又吾人カ他人ト契約シテ得タル利益、遺囑者ノ死後遺囑相續人ノ得タル利益ノ如キモ等シク權利ニシテ即チ吾々カ資産ノ一部ヲ爲シ何人ノ意ヲ以テスルモ奪フ能ハサルモノナリ之ニ反シテ單純ニ利益ト稱スルハ純然タル希望若シクハ豫期ニ過キサルモノナリ即チ唯、其當時ノ法律ニシテ繼續セハ之ヲ得ルノ望アリト云フニ外ナラス例へハ前例ノ場合ニ十七歳以上ナラサレハ結婚スル能ハストセンニ今十六歳ノ者ハ翌年ニ至レハ結婚シ得ルノ望アリ然レトモ今日ヨリシテ已ニ之ヲ權利ナリトハ稱ス可カラズ單ニ一ノ希望ニ過キサレハナリ故ニ新法出テ、結婚齡ヲ二十歳トセハ假令十七歳トナルモ結婚スル能ハス又相續人カ遺産ヲ相續スルノ希望モ利益ト云フヲ得レトモ權利ト稱ス可カラズ何トナレハ被相續人即チ財産所有者ニ於テ其生前ニ財産ヲ賣拂フカ或ハ他人ニ讓渡シタル時ハ相續人ノ希望ハ全ク消滅ス可ケレハナリ故ニ權利ヲ得ルノ希望

ハ何程之ヲ達スルニ近キモノト雖モ未タ吾人ノ資産ニ入ラサルヲ以テ既得ノ權利ト稱ス可カラズ

此ノ如ク既得權ノ有無ハ法例第二條ノ原則ヲ適用スル標準トシテ一般學者ノ採用スル所ナルカ法律ニ依リテハ又此區別ニ從フ可カラサルモノアリ已ニ述タル如ク立法者ハ萬能力ヲ有スルヲ以テ自ラ見テ以テ正義公道ニ反スルモノトナシ全ク其根底ヨリシテ法律ヲ廢止セント欲セハ能ク已往ニ遡テ舊法ヲ廢止スルコトヲ得可キカ故ニ若シ此種ノ法律ナランニハ裁判官ハ第二條ノ原則ニ拘束セラレ、コトナクシテ新法ヲ適用セサル可カラズ例へハ明治五年十二月二日ノ布告第二百九十五號即チ人身賣買ヲ禁シタル法律ノ如キ其一例ナリ立法者ハ人身ノ賣買ヲ以テ人倫ニ背クノ甚シキモノトシ將來ニ向テ之ヲ禁シタルノミナラス從前ノ賣買ヲモ全ク不成立ノモノトシ其賣買ヨリ生シタル權利モ全ク之ヲ無効ニ歸セシメタリ尙ホ明治八年八月十四日ノ布告第二百二十八號ニテ人身ノ賣買ヲ禁シタルモ亦之ト同趣ノモノナリ若シ此種ノ法律ナランニハ既得權ノ有無ハ問フ所ニ非ス裁判官ハ須ラク立法者ノ精神ノ在ル所ニ從

ヒ新法ノ効力ヲ已往ニ及サ、ル可カラス何トナレハ法律不遑及ノ原則ハ立法者ヲ拘束スルモノニ非サルヲ以テ裁判官カ之ヲ適用スルニ於テハ立法者ノ精神如何ヲ推察セサル可カラサルハ勿論ナレハナリ

以上述タル原理ニ基キテ今ヨリ各種ノ法律ニ付キ其應用如何ヲ研究ス可シ
法例ノ草案ニハ管テ此適用ニ關シ四箇條ノ規定アリタルモ法例ノ確定文ニハ之ヲ示サス惟フニ萬般ノ場合ヲ網羅シテ應用ヲ示スコトノ困難ナルヨリシテ寧ロ學說及ヒ裁判例ノ定ムル所ニ一任スルニ若カストノ考ニ出テタルナランカ果シテ然ラハ之カ一定ノ適用ヲ定ムルハ予輩カ諸君ト當ニ任スヘキ所ナリ

第一 身分及ヒ能力ニ關スル法律

〔甲〕 身分ニ關スル法律

身分(エター)トハ法律上吾人ノ有スル地位ヲ指スモノニシテ廣ク之ヲ解スル時ハ人ノ能力ヲモ包含スレトモ之ヲ能力即チ「カバチチ」ト對シテ用フル時ハ國民ノ分限、夫婦ノ分限、親子ノ分限及ヒ養子ノ分限ニ限リテ特ニ之ヲ身分ト稱ス身分ニ關スル法律ハ其効力已往ニ及サストノ一般學說ノ認ムル所ナ

作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ掲ケサルトキニ限ルト以下各項ニ就テ逐次之ヲ説示セン

第一 所有地又ハ借地ヨリ收穫シタル產物ヲ賣ルコト但營業ノ目的ヲ以テ

セサルモノニ限ル

所有地又ハ借地ヨリ收穫シタル產物ヲ賣ルトハ例ヘハ農夫カ其田畑ヨリ得タル所ノ穀物ヲ賣リ或ハ官吏カ其邸内ニアル果實ヲ賣ルカ如キチ云フ而シテ是等ノ賣買ヲ商取引ト爲サ、ルハ之ヲ以テ營業ノ目的トセサルモノニ限ルヲ以テ若シ營業ノ目的ヲ以テ賣買スルモノハ素ヨリ商取引タルニ妨ケナキナリ故ニ我國ニ於テハ農夫等カ自ラ耕作シタル產物ヲ賣コトモ時ニ或ハ商取引タルコトアリ是佛法及ヒ獨法ト異ナル點ニシテ而カモ我カ商法ノ他諸國ノ法律ニ比シテ優レル所以ノ理由ハ已ニ述ヘタルカ如シ

第二 戸々ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣リ又ハ勞役ヲ供スルコト但常設ノ營業所ヨリ出ツルモノハ此限ニ在ラス

本號ノ規定スル戸毎ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣ルトハ彼ノ魚類若クハ小

間物等ノ行商人又ハ夜店、辻店ノ如キ道路ニ露店ヲ張テ種々ノ日用品若クハ飲
 食物ヲ賣ルノ類ヲ云フ又勞役ヲ供スルモノトハ人力車、靴磨キ、下駄繕ヒ其他案
 内者カネコ輕子等ヲ云フ而シテ此等ノモノ、行爲ハ皆商取引トナスヲ得サルナリ然
 レトモ若シ常ニ店舗ヲ設ケ其事ヲ營業トスルモノ出テ、前述ノ行爲ヲナスト
 キハ是正ニ商取引ナリ例ヘハ人力車夫カーノ店舗ヲ構ヘ其挽夫ヲ市街ニ出タ
 シテ乘客ヲ挽カシムルカ如シ獨リ子ノ怪訝ニ堪エサル所ハ其如何ナル理由ア
 リテ戸毎ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣ルモノ、行爲ハ商取引タラサルカド
 云フコト是ナリ何トナレハ其理由ヲシテロエスレル氏カ説明セル如ク事業ノ
 細小ナルカ爲メナリトセンカ商業ノ雜多ナル何ソ此種ニ限ラン視ヨ軒頭ニ草
 鞋ヲ釣リ日ニ數錢ヲ得テ生計ヲ營ムモノ戸邊ニ駄菓子ヲ陳テテ僅少ノ利益ヲ
 計リ以テ漸ク糊口ニ資スルモノアルニ非スヤ今夫レ斯ル瑣微ノ商賣ヲナスモ
 ノニ向テ、一般商人ノ規則ヲ適用シ難キハ勿論ナリト雖モ始メヨリ此等ノモノ
 ナ商人トナサスシテ所謂非商人カ商取引ヲナスモノトセハ果シテ何ノ不理カ
 ズル農夫ト雖モ時ニ或ハ商賣ヲナスコトアルカ如ク非商人モ亦商取引ヲナシ

五十一

得ヘキハ明白ノ理ニ非スヤ本號規定ノ理由ナキ夫レ知ルヘキノミ且本號ニハ
 戸々ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣ルトアルカ故ニ今其反對即チ戸々ニ就キ
 又ハ道路ニ於テ物品ヲ買フモノハ如何必スヤ之ヲ商取引ヲナスト云ハサル可
 カラス例ヘハ紙屑買ヒ又ハ「ランプ」ホヤノ破屑ヲ買フモノ、如キ皆之ヲ賣ルニ
 非スシテ買フモノナレハ以テ商取引ヲナスモノト云ハサル可カラサルナリ是
 ニ由テ之ヲ觀レハ本號ノ規定ハ彼此ノ間ニ於テ大ニ權衡ヲ失シタルモノト斷
 言セサルヲ得ス

第三 專ラ勞力賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲナスコト
 本號ノ規定ハ假令一家ヲ有シ多少ノ物品ヲ製造シ又ハ自宅ニ在テ勞役ニ應ス
 ルモノト雖モ其爲ス所ノ事柄タル極メテ細小ニシテ主タル目的ハ專ラ勞役賃
 ナ得ルニ止マルモノヲ悉ク包括スルニ在リ例ヘハ職工ヲ使用セサル桶屋又ハ
 指物師カ專ラ勞役賃ヲ得ルノ目的ヲ以テ仕事ヲナスカ如キ又人力車挽カ自己
 ノ車ヲ以テ人ノ雇傭ニ應スルカ如キ或ハ女髮結其他摺附木ノ箱張等ノ如キ皆
 此類ナリ

第四 他人ノ爲メニ働作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關

スル規定ヲ掲ケサルトキニ限ル

他人ノ爲メニ働作又ハ勞役ヲ賃約スルトハ賃銀ヲ得テ自己ノ勞力ヲ他人ノ使
用ニ供シ以テ糊口スル所ノ日傭人ニシテ各種ノ被傭人、職工、左官、大工等是ナリ
而シテ此等ノ爲ス所ノ事柄ハ皆單ニ勞役賃ヲ得ントスルニ止マリ敢テ射利ノ
業ヲ營ミ又ハ貨物ヲ轉換スルモノニ非サルナリ故ニ其行爲ヲ以テ商取引トナ
サ、ルハ歐洲諸國皆同一ナリ然レトモ此唯其傭人ヲ主眼トシテ觀察シタルモ
ノニシテ若シ其之ヲ使役スル雇主ニ就テ論スルトキハ或ハ其使役ハ商業用ノ
爲メニシテ商取引ト云ヒ得ヘキコトアリ故ニ雇傭契約ハ其被傭人ヨリ論スレ
ハ常ニ民事上ノ取引ニ屬スレトモ雇主ノ目的ヨリ視ルトキハ或ハ商取引トナ
リ或ハ民事上ノ取引トナルコトアルヘシ例ヘハ製造家カ其製造ニ使役スル爲
メ職工ヲ傭ヒ入ル、カ如キハ商取引ナレトモ通常人カ其住家ヲ建築シ又ハ自
家供用ノ物品製造ノ爲メ職工ヲ傭ヒ入ル、カ如キハ民事上ノ取引ニ屬スルカ
如シ

五十二

五十三

本號ニモ亦一ノ例外アリ即チ但書ニ明示セルカ如ク商法中特ニ規定シタルモ
ノヲ除クコト是ナリ例ヘハ商業使用人ノ傭ヒ入レ及ヒ本編第五章ノ海員傭ヒ
入レニ關スル契約等ノ如シ尙ホ其詳細ハ該條ノ講義ニ讓ラン

以上講述シタル事柄ノ外法律ハ尙ホ不動産ニ關スル取引ヲ以テ商取引トナサ
、ルチ原則トス商法第八條ニ云ク不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契約ハ商
取引トセス但射利ヲ趣旨トスル買得及ヒ轉賣ハ此限ニ在ラスト而シテ動產ト
ハ不動産ニ對スル語ニシテ其本質ヲ損傷セスシテ他所ニ移シ得ルモノヲ云フ
今此定義ニ從フトキハ動產ナル名稱中ニハ「ラング」書籍家具等ハ勿論牛馬等ヲ
モ包含スルモノナリ之ニ反シテ不動産ハ其性質上他所ニ移シ得ヘカラサルモ
ノ若クハ其性質ヲ變セサレハ他所ニ移シ得ヘカラサルモノナク云フ例ヘハ土地
山林ノ如キ人カヲ以テ他所ニ移スコト能ハサルモノニシテ家屋ノ如キハ之ヲ
毀テ其家屋タル性質ヲ變スルニ非サレハ他所ニ移ス能ハサルナリ而シテ此區
別ハ近世歐米學者ノ所說一致スル所タリト雖モ我法律ノ所謂動產、不動産ノ名
稱ハ稍之ト異ナレリ即チ我法律ノ動產、不動産ハ性質上ノモノト用法上ノモノ

法定上ノモノ、三種アリ財産編第八條ニ於テ性質ニ因レル不動産ノコトヲ規定シ第九條ニハ用法ニ因レル不動産第十條ニハ法定ニ因レル不動産ノコトヲ規定シ又動産ニ關シテ第十一條乃至十三條ニ於テ之ヲ規定セリ

本條ニ不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契約トアリテ其契約ノ區域タル甚ク廣漠ニ涉リ不動産所有權ノ移轉即チ其買賣讓與交換ノミニ止マラス賃貸地役書入質ノ如キ苟モ法律上不動産權ト稱シ得ヘキモノハ皆之ヲ包含スルモノ、如シ然レトモ建築ニ係ル事業(第四條)請負作業ノ引受(第五條)及舞踏會宴會ノ爲メ座敷ヲ貸渡スカ如キ(第五條)ハ素ト不動産ニ關スレトモ我商法ハ之ヲ商取引トナセリ是ニ由テ觀レハ均シク不動産ニ關スル契約ニテモ或ハ商取引トナリ或ハ然ラサルコトアリテ一概ニ不動産ニ關スル契約ハ商取引ニ非スト云フヲ得サルニ似タリ果シテ然ランニハ本條ノ規定ハ前述シタル所ト相抵觸セルモノ、如シ故ニ其抵觸ヲ避ケンニハ勉メテ本條ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契約云々ノ意義ヲ狹隘ニ解釋セサル可カラス而シテ法典編纂者ハ始メ本條ヲ單ニ土地ノ權利ニ關スル契約ハ商取引トナラスト規定シ而シテ其理由ヲ

五十四

五十五

說明シテ土地ノ權利ニ關スル契約トハ土地所有ノ權利ニ關スルモノヲ主トシ其他地役又ハ地所家屋等ノ貸附ニシテ全然其物件ヲ借主ニ委附セサルモノナク故ニ土地ノ權利ニ係ル契約云々ノ規定ハ不動産ニ關スル諸契約一切ニ普及スヘキモノニ非スシテ其目的ニ依テ動産ト同一タル物件ト看做スヘキモノハ之ヲ除ク云々ト此說明ハ甚ク漠然ニ失シ如何ナル點マテ土地ニ係ル權利ト云フヤ殆ント其區域ヲ知ルニ由ナシ然レトモ其土地ニ關スル契約ノ目的ニ依テ動産ト看做スヘキ物件ニ關スルトキハ之ヲ除クト云ヘル點ヨリ推定スレハ契約ノ目的カ不動産タルヘキ性質ヲ變セスシテナシ得ヘキ場合ハ商取引タルストハ意ナルカ如シ又草案編纂者ハ本條ノ規定ヲ設ケタル理由ヲ說明シテ云ク土地家屋ノ如キ不動産ハ殆ント一定不變ニシテ彼ノ商品ノ如ク且生産シ且費消シ屢轉讓スルモノト同シカラス即チ不動産ヲ買入ル、カ如キハ概テ之ヲ永久ニ所有シ以テ生計ノ基礎ヲ立ツルニ在リ且不動産ハ其性質上射利ヲ目的トスル商業ニ適セサルヲ以テ此等ニ關スル契約ハ商取引トセサルナリト然レトモ其草案ヲ修正シテ確定法文トナシタリ本條ニ依レハ不動産ニ關スル權

利ヲ目的トセル契約ハ商取引トセス但射利ヲ趣旨トスル買得及轉賣ハ此限ニ在ラスト在テ其土地賣買ノ目的射利ニ在ルトキハ商取引トナルコトアリ故ニ草案者ノ意思ト立法者ノ意思トハ稍異ナリタルカ如シ然ラハ立法者ノ精神ハ如何ト云フニ立法者ハ草案者ノ如ク不動産ヲ以テ性質上射利ヲ目的トスル商業ニ適セサルモノト断定セスシテ唯不動産ニ關スル契約ハ一般ニ射利ノ目的ニ出ツルモノニ非ストノ一應ノ推測ニ止メタルモノニ似タリ是ヲ以テ立法者ハ其但書ニ於テ不動産ノ權利ヲ目的トスル契約ト雖モ苟モ射利ヲ目的トスル意思判然タルトキハ猶商取引トナスコトヲ規定セリ是他ナシ射利ノ意思アルコト判然ナルトキハ正ニ其一應ノ推測ニ反スルカ故ナリ例ヘハ築港又ハ鐵道敷設ノ舉アルヲ聞キ又ハ外國人ニ内地雜居ヲ許スノ風説ヲ前知シ豫メ其沿道若クハ便宜ノ地所ヲ買入レ而シテ後日其地價ノ騰貴スルヲ俟テ之ヲ轉賣シテ利益ヲ得ント圖ルカ如キハ其買得及轉賣ノ目的射利ニアルコト判然タリ此ニ注意スヘキハ本條ノ但書ニ單ニ買得及轉賣トノミアルヲ以テ地價ノ騰貴ニ乘シ自己ノ所有土地ヲ賣却スルカ如キハ初賣ニテ轉賣ニ非ザレハ假令其目的

五十六

五十七

内地稅關價ヲナシ且ツ輸出高ニ百萬「グールド」ヲ限リ一「グールド」付「グールド」ノ保護ヲ與アルコトヲ約セリ「グールド」ハ凡ソ三十六英斤ニ「グールド」ハ凡ソ六十仙ナリ是ニ於テ甜菜糖ノ供給益加ハリ西曆千八百八十六年一月終ニ保護ヲ與タル輸出ノ制限ヲ解キ向テ六箇月間無制限ニ輸出賞與金ヲ與フヘキヲ命ぜり是ニ於テ魯商ハ此短期日中ニ爭テ英伊兩國ニ對シ低價ヲ以テ二億二千七百萬英斤ノ甜菜糖ヲ賣賣シ大ニ四海ノ糖價ヲ攪亂シ尙ホ三百萬「グールド」ヲ賣獲セタリト云フ此ノ如キハ是レ偏執以テ事ヲ處スルモノニシテ固ヨリ全局ノ關係如何ヲ知ルモノニ非ス實ニ思ハサルノ甚シキモノト云フヘシ而シテ其低價ノ輸入物ヲ受ルノ國ハ爲メニ非常ノ利ヲ得ルト雖モ固ヨリ之ヲ以テ常例トスル能ハス或ハ一時ノ變ニ誤マラレ遂ニ全局ノ觀測ヲ失フコトナシトセス豈ニ懷中ナルヲ得ンヤ

佛國ノ糖業モ其經歷ハ略ホ獨逸ニ彷彿セタル所アリ然レトモ國各其勢ヲ異ニシ自ラ特色アルヲ免レス西曆千八百八十四年以前ハ製糖ニ向テ内地稅ヲ課セリ然レトモ同年以降ハ甜菜根ニ課稅シ從前ノ製糖高ハ素品ノ五分五厘則チ甜

菜根百キログラムニ付五キログラム平ノ砂糖ヲ製造スルモノトセシト雖モ此改正ニ於テハ西曆千八百八十五年ヨリ三年間ハ製糖高ハ素品ノ五分乃至六分トシ以上ノ産出高ハ全ク租税ヲ免ルヘキモノトセリ是ニ於テ獨逸ト同様甜菜耕作ハ勿論製糖方法ニ非常ノ進歩ヲ來シ西曆千八百八十四年ノ製糖高ハ五分五厘ナリシニハ八十五年ニハ七分二厘五毛八十六年ニハ八分一厘二毛八十七年ニハ八分八厘七毛八十八年ニハ進シテ九分五厘トナリ而シテ八十五年ニハ總製糖ノ二割二分五厘六毛ハ全ク無税トナリ八十六年ニハ三割六分二厘一毛八十七年ニハ三割六分四厘四毛ノ無税品トナレリ而シテ亦之ト同時ニ佛國植民地ニ於ケル糖業ノ蒸餾セシコトヲ恐レ其輸入税ノ一割二分ヲ免シ尋テ免税ノ歩合ヲ増加シテ二割四分トセリ是ニ於テ佛國製糖ノ租税ヲ免ル、モノ西曆千八百八十五年ニハ五萬七百二十八噸八十六年ニハ免税糖ノ増加八萬七千九百十噸八十七年ニハ十八萬四千五百五十四噸ニシテ租税額ノ減スルコト前記三年中第一ニ於テ二千五百三十六萬四千七百七十七フラン第二ニ於テ四千三百九十五萬五千七十三フラン八十七年ニ於テ九千二百七萬七千二百七十八フラント

ナレリ則チ此高ハ製糖家ヘ付與セシ所ノ保護金ニ當ルモノトス抑佛國製糖家ハ此ノ如ク非常ノ保護ヲ受ケシニ由リ其收入上綽々トシテ餘地アリテ大ニ甜菜ノ品質ヲ改良スルノ利アルヲ悟リ其耕作者ニシテ若干分以上ノ糖分ヲ含有スル甜菜ヲ耕作スル者ニハ特ニ其代價ニ割増シヲ與ヘタリ然レトモ品質ト分量ハ共ニ無限ノ進歩ヲナスコト能ハス品質ヲ改良セント欲セハ甜菜ノ根隨テ小形トナリ其改良亦自ラ程度ノアルコトヲ發見セリ而シテ政府モ亦無限ニ此巨大ナル利益ヲ糖業者ニ與フヘキニ非サルヲ悟リ西曆千八百八十七年ニ至リ一ノ法律ヲ發シ八十八年ニハ課税ノ歩合ヲ増加シテ原料ノ七分トシ爾來四年ノ間ハ一年ニ一分ノ四分一宛課税ノ歩合ヲ増加スヘシト定メタリ然レトモ實際ノ製糖ハ九分五厘ナルヲ以テ製糖者ニ於テハ尙ホ不思議ノ利益ヲ特有スルモノト云フヘシ

歐洲大陸諸國ニ於テ糖業ヲ獎勵スルコト夫レ此ノ如ク毎年之レカ爲メニ費ス所ノ金額亦實ニ尠シトセス而シテ之ニ對スル結果ハ固ヨリ國內ノ糖業ナレテ發達セシムルハ疑フヘカラスト雖モ到底外人ニ廉價ナル砂糖ヲ與ヘ國人ハ却

テ高價ニ之ヲ消費セサルヲ得サルノ不幸ニ陥ルコト理ノ甚ク視易キ所ナリ然
 ルニ之ヲ是レ悟ラス百方干涉以テ得色アルハ不可思議ノ極ト云フヘシ西曆
 千八百八十九年獨逸ニ於テ砂糖輸出保護金ノ高ハ凡ソ四百萬「ドル」ニシテ八十
 七年澳國ニ於ケル輸出保護金ハ五百萬「フローリン」トス則チ澳國ハ外糖輸入税
 ノ爲メ糖價騰貴シ其實内國ノ消費者ハ四百五十萬「フローリン」ヲ消費シ要シ合
 計糖業保護ノ爲メ國民ニ九百五十萬「フローリン」ノ費用ヲ課シ外人ニハ五百萬
 「フローリン」ノ廉價ニ當ル砂糖ヲ賣却セリ其他白耳義ハ西曆千八百八十六年ニ
 四百萬「マル」和蘭ハ百五十萬「ドル」ノ輸出保護金ヲ拂ヘリ而シテ北米合衆國モ亦
 甜菜糖熟ノ病ニ感染シ西曆千八百八十一年ニハ精製糖ノ輸出高二千二百二十
 二萬七千英斤ナリシニ八十五年ニハ一躍シテ二億五千二百五十七萬九千英斤
 トナレリ是レ合衆國ノ糖業保護ノ非常ナル所以ナリ而シテ前記ノ高ハ當年ヲ
 甘藷糖生産高ニ超過スルコト二千六百萬英斤ナルヲ以テ此高ハ甜菜糖ナルヲ
 知ルヘシ而シテ合衆國糖業保護ハ歐洲大陸ノ例ニ倣ヒ制戻税ノ假面ヲ被ル
 ヲ以テ國民多ク之カ關係ヲ知ルモノナク却テ外國敵手ノ注意ニ依リ其事實ヲ

英十

表十一

發見スルコト少カラス則チ前記ノ事實モ亦英國糖業者ノ調査ニ於テ始メテ世
 ニ顯ハレタリ而シテ合衆國製糖制戻税ハ西曆千八百八十五年ニハ百斤ニ付三
 十九仙ナリシニ八十六年ニハ之ヲ十七仙ニ減セシニ輸出高忽チ減シテ一億六
 千四百三十三萬九千英斤トナリ八十八年ニハ大ニ減シテ三千四百四十四萬九
 千英斤トナレリ今又更ニ進ンテ其實際ノ關係ヲ見ルニ合衆國糖業ノ保護ハ主
 トシテハワイ島甘藷耕作者ノ利益トナリ國民ニ課税シテ却テ彼等ヲ惠ムノ結
 果トナレリ何トナレハ同島ヨリ輸入スル砂糖ニハ租税ヲ免シ他國ヨリ來ルニ
 ノニハ重税ヲ課シタレハナリ而シテ砂糖ノ輸入税高ハ凡ソ六百萬「ドル」ニ達シ
 加フルニ粗糖ヲ輸入シ之ヲ精製シテ輸出スル者ニハ保護金ヲ與フルニ依リ精
 局合衆國人民ハハワイ糖業者ヲ保護シ同時ニ他國ノ人民ニ廉價ノ砂糖ヲ惠與
 シ自ラ高價ナル砂糖ヲ消費スルモノナリ蓋シ新國發生ノ力能ク此ノ如キノ不
 利ニ堪ユルモ素ヨリ是故國ヲ慮スルノ道ニ非サルナリ
 歐洲大陸諸國ノ干涉政略ハ其利害得失ニ於テ大ニ玩味スヘキモノアリ蓋シ其
 結果タル一方ニ於テハ其目的ヲ達シ就中甜菜糖ノ如キハ大ニ其生産高ヲ増加

西曆千八百六十年ニハ甜菜糖ハ世界ノ砂糖總生産高ノ二割ヲ占メシニ急ニ非常ノ増加ヲ示シ八十八年ノ頃ニ至リテハ其五割六ヲ占メタリ此ノ如キノ増加ハ實ニ保護ノ效果タルニ外ニラス然レトモ其増加ハ需要ト相伴フコトヲ得ス西曆千八百八十六年八十七年頃ニハ砂糖ハ殆ント五穀ト伍ナ同フニ英國ニ於テハ家畜ノ食物ノ一部分トナリ又肥料トシテ使用セラレ、ニ至レリ實ニ其價格ノ減少セシコト意想外ニ出テタリ則チ英國ニ於テハ西曆千八百六十九年ヨリ七十五年マテハ粗糖ノ平均代價ハ一本ニ付二十四シリング四七ナリニ七十九年ヨリ八十三年マテノ平均ハ二十シリング九七トナリ八十四年ヨリ八十八年マテノ平均ハ十三シリング六三トナレリ其肥料トナリ家畜ノ食物トナルモ亦偶然ニ非サルナリ

砂糖ノ如キ一般消費品ノ價格減少ハ消費者ニ利益ヲ與フルコト甚タ大ナルハ疑ナ容レス殊ニ英國ノ如キハ西曆千八百七十四年以來砂糖稅ヲ廢セシニ由リ大ニ其需要高ヲ増加シ同年ニ於ケル一人ノ消費高ハ五十六英斤ナリニ八十六年ニハ七十四英斤ニ増加セリ合衆國ノ如キハ生計甚タ寬裕ニシテ殊ニ節酒

六十二

六十三

會ノ勢力最モ盛ニシテ砂糖ノ消費他國ヨリ多カラサルヲ得サルノ傾向アリト雖モ八十五年ニハ一人ノ消費高五十四英斤ニシテ英國ニ及ハス鵝蚌ノ争ヒ獨リ英國ヲシテ漁夫ノ利ヲ得セシメ砂糖下落ノ爲メ英國人民ノ生計費ヲ減少スルコト西曆千八百八十四年ニ於テハ五百萬ポンドニ達セリト云フ(西印度物産調査委員ノ調査ニ據ル)實ニ是レ西印度砂糖生産高ノ總額(四百五十萬ポンド)ヲ超過シ英國ニ於ケル製糖業資本額ノ二倍ニ達セリ其他糖業保護ハ歐洲大陸諸國ニ於テハ糖業者ノアル或ル地方ニ格別ナル利益ヲ與ヘ西曆千八百八十六年ニ於テハ佛國ノ二大製糖家ハ輸出賞與金ノミニテ各二百二十二萬五千ドルノ巨利ヲ得タリト云フ然レトモ外國ヘ砂糖ヲ廉價ニ賣却スル爲メ此利益ノ幾分ヲ失ヒシハ事理ノ免レサル所ナルヘシ事態既ニ此ノ如クナルヲ以テ英國ノ獨立獨行製糖業ハ甚タ困難ノ場合ニ遭遇セント雖モ砂糖ノ消費者ハ前陳ノ利益ヲ得シノミナラス大ニ菓子營業者ヲ利シ菓物保存、砂糖養ノ菓實及ヒ菓醬(シヤム)業等ノ爲メニ非常ノ利益ト發達ヲ來シ以テ製糖困難ノ不利ヲ償フテ尙ホ餘リアルニ至レリ元來英國ハ其氣候風土菓實ノ成長ニ適スルニ非スト雖モ砂糖

ノ廉價ニ乘リ「サヤム」製造等ノ事業大ニ發達シ、西曆千八百八十四年ニ於テ是等ノ事業ニ使用セシ精製糖ハ十萬噸ニ達シ、一萬二千人（製糖業ニ要スル職人ノ數ニ倍ス）ノ職工ヲ使用シ、八十六年ニハ十五萬噸ノ製精糖ヲ使用スルニ至レリ、「サヤム」及ヒ糖菓ノ使用亦大ニ増加シ、柑ノ砂糖類（柑類ハ英國ニ於テハ輸入品ナリ）ハ従前ハ顯著品ナリト雖モ其價下落シ以テ殆ント最下等人民ノ常食物トナリ、「サヤム」類ハ大ニ麵粉ト共ニ使用セラレ、全ク「バター」ノ代用物トナルニ至レリ、糖業ノ保護其度ニ過キ需給ノ權衡ヲ失シ悉ク輸出賞與ノ利益ヲ犧牲ニ供セタル最低ノ價格ヲ以テ之ヲ外國へ賣出スモ過度ノ供給ヲ處分スルコトヲ得ル極ニ至リ其勢遂ニ支ユルコト能ハス、歐洲大陸ノ糖業ニ非常ノ困難ヲ來シ、倒産理ヲ接ヘテ起リ前キニ繁榮ヲ來シタルノ原因ハ後ニ却テ困難ヲ生スルノ原因トナレリ（但佛國ノミハ其氣候ノ爲メ他國ヨリ少シク鹽ミアリ）抑、一國ノ大物産ハ廣ク四海ノ市場ヲ目的トスルニ非サレハ其利ヲ全フスル能ハス、歐洲大陸ハ甜菜糖業ノ始キ最モ然ラサルヲ得、大即チ獨逸ノ如キハ其生産高ノ半額以上ハ之ヲ他へ輸出セサルヲ得スト云フ然ルニ其輸出ニ於テ賞與金ヲ外國消費者ニ

賣捌所

東京麹町區上六番町

日成

同 京橋區尾張町

東海

同 本郷區元富士町

解明

同 神田區錦町

武藏

同 神田區一橋通

有斐

同 神田區錦町三丁目

朝陽

麻布區永坂町五拾壹番地

旭

堂 堂 閣 屋 堂 堂 堂

明治廿六年三月廿三日印刷

明治廿六年三月廿四日出版

定價拾錢

東京市神田區今川小路二丁目十四番地

發行兼印刷者 高橋捨六

東京市小石川區下富坂町十七番地

編輯者 濱田健次郎

東京市神田區今川小路二丁目八番地

發行所 特別私立專修學校